

精神衛生資料

Annual Report on Mental Health

1978/No.23別冊

精神衛生年表

国立精神衛生研究所

*National Institute of Mental Health
Japan*

正 誤 表

頁	行	誤	正
5	1	天皇年紀	年 代
9	10	血	恤
26	20	1978	1798
30	下から 5	1935	1835
30	下から 2	1936	1836
31	15	痴遇	痴愚
33	18	科学アカデミーから獎を受け	科学アカデミーから賞を受け
33	19	幕府拒絶一英・	幕府拒絶、英
38	1	外国における精神衛生事項	外国における精神衛生事項
39	下から 3	就学免除	就学免除
57	下から 4	(医師水谷牛次郎医師,	(医師水谷牛次郎, 医師
61	1	外国における精神衛生事項	日本における精神衛生事項
62	下から 15	真珠養殖	真珠養殖
63	1	外国における一神衛生事項	外国における精神衛生事項
64	23	日本医学専門学校	日本医学専門学校
67	1	外本における精神衛生事項	日本における精神衛生事項
68	15	入院費の徴収方法	入院費の徴収方法
69	1	外国における精神衛生事項	日本における精神衛生事項
69	下から 2	議義録	講義録
73	下から 1	「精神神経学雑法」	「精神神経学雑誌」
76	下から 6	1904 1939	1940 1940
77	9	精神薄児	精神薄弱児
83	下から 15	全特連・受護協会	全特連・愛護協会
83	下から 3	国際精薄関係団体	国際精薄関係団体
90	下から 17	協全・育成会	協会・育成会
92	2	5月1, 日日本	5月1日, 日本
92	4	刊法全面改正	刑法全面改正
93	下から 13	ケロルジ	クロルジ

精神衛生年表

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代	
前 603				最古の医療規定ハンムラビ法典(バビロニア)	前1800頃	
				『パピルス・エドウィン・スミス』と『パピルス・エーベルス』成立(エジプト)	前1700頃	
				ローマ建国と伝える	前 753	
				シナ 3 皇の 1 である神農が百薬をなめて医薬を製したという	前 670	
				アッシリア, エジプトを征服オリエントを統一(前 612)最後の大王アッシュールニパールの大図書館は貴重な文献を伝えている	前 671~	
				ススルタ(インド)と扁鵲(シナ)医名をとどろかす	前 600頃	
				釈迦誕生(インド)(~486)	前 565	
				アルクメオン(500~430)ギリシャの哲学者・生理学者)健康について考え, 初めて屍体解剖をし感覚器と脳との経路を示した。また実験を通して精神障害を哲学者たちに注目させた(ギリシャ)	孔子誕生(シナ)(~479)	前 550
				アケメネス朝ペルシヤ・オリエントを統一	前 525	
				医聖ヒポクラテス誕生・前 5 C~前 4 Cにかけて疫病の原因を超自然的な作用から明確に切り離し四体液説と立てるなど, 科学的態度で疫病に臨み綿密な臨床記録も残す(ギリシャ)	釈迦の侍医者婆活羅(インド)	前 478
				ソクラテス誕生(前 399 刑死)	前 470	
					前 460	

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
前 219	始皇帝の命で仙薬を求めに奏人徐福は3,000人を率いて南紀に来る。その内には医師もいたという		ヘロフィロス (人体解剖学の祖として神経・大脳・小脳・脈搏のリズムなどを発見) の解剖学とエラシストラトスの生理学あられ、医学研究盛んになる (アレキサンドリア)	アレキサンダー大王の東方遠征始まり、インド医学西に伝わる (マケドニア)	前 334
				アレキサンドリア学校建設 (エジプト) (建築学・機械学・数学・医学……解剖と実験を重んじ、死刑囚を生体解剖する)	前 320
				秦 (~前206) シナを統一	前 300
				第2次ポエニ戦争おこる (ハンニバル戦争 ~前201) : ローマ西地中海地方に強勢	前 221
			黄帝『内経』(だいけい) (漢方医学第一の古典完成 (シナ)。癲狂篇があり、癲疾・驚狂等の記載がある)		前 218
				劉邦 (漢の高祖、在位前202 ~ 前195) 項羽を破り、天下統一	前 212
				前漢・朝鮮4郡を改め楽浪郡のみとなる : 漢の勢力後退	前 202
				アスクレピアデスがギリシャ医学を移植 (ローマ)	前 182
前 53	疫病流行し、天皇 (崇神) 神前に祈禱して平息という。「此の天皇の御世に、疫病多(さわ)			朱蒙 (東明王) 高句麗を建てる (朝鮮 ~668)	前 100頃
					前 37

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
	に起り、人民死せて、盡きなむとす。ここに天皇愁歎ひたまひて(中略) 御諸山に意富美和の大神前を拝き祭りたまひき。……此に因りて役気悉に息みて、国家安平ぎき)「古事記中巻)			オクタウィアヌス・アウグストゥスの称号をうける：ローマ帝政の初め	前 27
				キリスト誕生(0~30) この頃仏教中国に伝わる	前 4
				王莽(前45~後23) (漢を滅ぼし新を建国) 医官に命じて人体解剖を実施	後 16頃
				劉秀(光武帝, 在位25~57) 後漢を建て(220)	後 25
後 57	倭の奴国王後漢に入貢し、光武帝から金印を受ける			軍医ディオスコリデスが薬物書を作る。ネロ皇帝の侍医アンドロマコスが解毒剤テリアカを創製(ローマ)	後 60頃
				ルーフォスが各派の学説を取捨して新しい医学体系を組織(ローマ)	後 100
				この頃ローマ帝国の版図最大	後 101
				祭倫、製紙法を発明(シナ)	後 105
後 107	倭国王、後漢(安帝)に入貢			ガレヌス生れる(~210) アレキサンドリア学校の卒業生で医学・解剖学・生理学の学者。西洋古代医学を大成さす(エジプト)	後 128
				この頃公衆衛生と医事	後 200頃

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
				制度大いに進歩（ローマ）	
				中国古代医学の治療書『傷寒論』と薬物書『神農本草経』成立（シナ）	210頃
				後漢が滅び魏が中国北部を統一し、三国時代が始まる（～265）（シナ）	220
				華佗が麻酔手術を行なう（シナ）	230
238	邪馬台国女王，卑彌呼の使魏に行く				
285	漢字伝来（百済の博士王仁論語10巻，千字文1巻を献上）				
288	日本軍，新羅を破り，任那成立（～562）	国標人（くすひと）来朝し，醴酒献上す（日本書紀）			
				高句麗，楽浪郡を滅ぼす	313
				百済の統一なる（～660）	346
				新羅の統一なる（～935）	356
				仏教，高句麗に伝わる	372
				北魏おこる（～534）	386
				テオドシウス（在位379～395）ローマ帝国を統一	394
				テオドシウス死．ローマ帝国東西に分裂	395
399	韓法医術伝来			フラビオラ初めてローマに病院（Nodocomiun）	400

(天皇年紀)	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
413	倭王讃(仁徳天皇)東晋に遣使			建設	
414	天皇病氣となり、新羅から医師金武を招く。外国医術初めて公けに伝わる			劉裕(武帝,在位~422)東晋を滅ぼし宋を建てる(~478)	420
				北魏,北シナを統一:これより南北朝の対立	439
				宋文帝,医学を設置医生を教授(シナの医学制度の始め)	443
459	天皇の徴召により高麗の医徳朱渡来,難波におり帰化し,代々医業を行なう。「難波の薬師」とよばれる			シナ南北朝時代,インドと西域の医学が伝わり,宗教的色彩が濃厚となる	450頃
				西ローマ帝国滅亡	476
478	倭王武,宋に遣使			南齊,宋に代っておこる(~502)(シナ)	479
				キリスト数の一派ネストリアンが国王の援助により総合大学を開く,アラビア医学の開幕(ペルシャ)	489
				梁,南齊に代っておこる(~557)(シナ)	502
				この頃新羅に仏教行なわれる	528
552	百濟,仏像仏具献上,大臣蘇我稲目奏上してこれを奉ず	この後疾病流行.中臣勝海・物部尾興,疫病流行は稲目が仏を奉じた為,国神が怒ったためと奏し寺を焼き仏像を難波の堀江に投げ捨てる.翌年			

年 代 (年 号)	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
554	百済医博士王有陵佗， 採薬師潘量豊・丁有佗 来る	天皇・大連，疫瘡にかかる．世人仏 像を堀江に棄てた崇りという		東ローマ，東ゴート王 国を滅ぼし，イタリヤ を属領とする	555
562	任那日本府滅ぶ 外国医書輸入・呉人知 聡が薬書明堂図等 164 卷献上			マホメット誕生(～632 歿)(アラビア)	570
574	聖徳太子誕生(～622)				
585	僧医の始め(大巨蘇我 馬子「臣既に久しく疾 む，三宝の力をからざ れば救治し難し」と奏 す．天皇詔して「三尼 を馬子に附し仏に祈願 せしむ」)	疫病流行，物部守屋中臣勝海，蘇我 稲目が仏を奉じた神罰と奏上，また 寺塔を焼き仏像を流し，僧徒を放逐 する		隋，陳を滅して天下統 一(シナ)	589
608	第2回遣随使小野妹子 ら，その中に薬師惠日 倭漢直福因(やまとの あやのあたえふくいん) ら随行させ，医学を学 ばせしめる(医学留学 の始め)		ゲール(Gheel)に精神病者集まる (精神障害者コロニーの母体)(ベル ギー)(7世紀)		608
				隋の巢元方ら勅命によ り症候診断書『諸病源 候論』50巻を作る (シナ)	610
				マホメット，イスラ ム教を開く(アラビア)	610頃
622	聖徳太子歿			西ゴート，イスパニア 海岸地帯を東ローマか ら取り，半島を完全に 支配	616
623	医惠日(くすしえにち)， 福因ら帰国．唐医学を 伝う			唐全国を統一(シナ)	628
642	鍼術の祖・紀幾男麻呂 新羅より帰国．鍼博士 となる				
645 (大化1)	始めて年号を設ける．				

年 代 (年 号)	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
645 (大化1)	善那使王(吳人知聡の子)牛乳を献ず				
657 (斉明4)	有馬皇子, 天皇に紀伊牟婁湯を推賞する	内大臣中臣鎌足病む. 天皇百濟禪尼法明をして維摩経偈句を誦せしむ. 未だ終らざるに病癒ゆ. ために鎌足は服す. この後疫病ある毎に僧侶に維摩経を誦させることになる			
658 (斉明4)	天皇・紀伊の湯(和歌山県湯崎)に行く			百濟滅亡	660
				唐, 高句麗を滅ぼす(朝鮮)	668
				道士の孫思貌が『千金方』『千金翼方』各30巻を作る. 中国現存最古の医学全書(シナ)	670頃
				新羅, 半島の領有を唐より認められる(朝鮮)	676
680 (弘文 天武9)	天武天皇, 皇后病気の為, 薬師寺内居住の僧尼の老齡者, 病者を収容するため舎屋を建てさせる			則天武后(624?~705)帝位を奪い, 国号を周と改める(~705)(シナ)	690
698 (文武2)	醴泉が近江国に湧く. 諸病者益須寺に宿泊し治療する.(温泉療法の始め)			大祥栄(在位~719)震国.(~713)を建て. 渤海の初め(~727, 満洲)	698
699 (文武3)		役小角, 葛木山に居て, 咒術をもって人を惑すとの理由で遠島される			
701 (大宝1)	大宝律令制定. 日本最古の医事制度を含む	大宝律令の中の医療令で「謂癲者, 発時仆地吐涎沫無所覚也. 狂者, 或妄触欲走. 或自高賢称聖神者也」と記されており, また癲狂者(精神病患者)の罪に対して特別の取扱いをするように規定されている		イスラーム教徒, 西ゴートを滅ぼし, イスパニア, サラセン領となる.(イスパニア)	711
712 (和銅5)	太安萬呂「古事記」を撰す			唐, 玄宗の治世始まる(~756)(シナ)	712
717	僧尼が病者にみだりに				

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
717 (養老1)	巫術を行うことを禁じた。養老律令(律10巻, 令10巻)頒布。医疾令は大宝律令と殆んど変わらない				
718 (養老2)	「養老律令」(大宝律令の改正法)完成。施行は757年				
720 (養老4)		『日本書紀』巻第26(齋明記)に「狂達(たぶれこころ)の渠(みぞ)云々」「陽(いつわり)り狂(たぶ)れて云々」とある			
729 (天平1)		異端妖術を学ぶことを禁ず			
730 (天平2)	光明皇后宮職に施薬院を新設して飢病者を療養さす。医療の初め。殺生禁断を令す				
735 (天平7)	豌豆瘡(痘瘡・えがさ)流行				
737 (天平9)	痘瘡流行				
754 (天平勝宝6)	唐の高僧鑑真(688～763)が正式の戒律と最新の唐医学を伝う			唐の王燾医書『外台秘要』40巻を完成(シナ)	752
780 (宝亀11)		この頃万葉集成。第17巻に「狂(たふ)れたる醜(しこ)つ翁云々」とある		カール大帝フランク王となる(在位～814)	760
802 (延暦21)	最澄(769～822)入唐			カール大帝西ローマ皇帝となる(在位～814)	800
804 (延暦23)	空海(774～835)入唐				
808 (大同3)	平城天皇の勅により固有の医方を全国に徴し				

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
808 (大同3)	「大同類聚方」100巻作られる				
822 (弘仁13)		『日本国現報善悪霊異記』成る。上巻「悪人乞食の僧を逼（おひかす）して現に悪報を得る縁第15」に「愚人顛沛（たぶ）れ東西（かにかく）に狂ひ走る」とあり、また中巻「悪逆の子妻を愛で母を殺さむとして謀り現に悪死を被る縁第3」に「鬼（もの）に託（くる）へる」、 「物に託ひて」とある。			
833 (天長10)		『令義解』（りょうのぎげ）清原夏野，菅原清公等撰上。この中で癪は癪痴，狂は精神病と識別		フランク王国3分割	843
861 (貞観3)	赤痢流行（日本最初の赤痢記事）特に10歳以下の男女の死多い			ラーゼス（Rhazes）生る。アラビア医学に獨創性加わる（アラビア）	850
867 (貞観9)		清和天皇不予（精神疲極す）。深根宗継露峰房猷り効験あった			
881 (天慶5)	京師の飢窮病困者を救血			メルセン条約：ロートリンゲン東西フランクに分割	870
894 (寛平6)	遣唐使を廃止			後百済独立（～936）	892
898 (昌泰1)	金剛般若経1万巻を15大寺に転読し天下の疫癘を払わせた				
901 (延喜1)		『日本三代実録』（藤原時平ら撰）成る狂人を「たぶればと」と呼んでいる		唐滅亡，五代十国はじまる	907
				ノルマンディー公国成立（フランス）	911

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
920 (延喜20)	疫疾流行			王建, 高麗を建てる (~1392朝鮮)	918
931 (承平1)		『倭名類聚抄』源順編, 癡狂に「ものくるひ」の和訓を附してある。即ち癡音天, 狂訓太布流, 俗云毛乃久流比とある		契丹, 渤海を滅ぼす (満洲)	927
937 (承平7)				高麗, 新羅を滅ぼし, 翌年後百済を併せ半島 統一(朝鮮)	935
973 (天延1)	疱瘡が流行			契丹, 国号を遼と称す (~1125) (満洲モン ゴル)	946
				宋おこる (~1279)	960
				オットー1世: ローマ にて帝冠を受ける: 神 聖ローマ帝国の成立 (~1806)	962
				蜀の地(四川)に鉄銭を 鑄造.(シナ)	
				エジプト大学創立	973
				宋, シナを統一	979
982 (天元5)		『医心方』(丹波康頼が隋唐の医学を要約したもので, 現存する最古の医書)30巻に精神病(中風・狂病・中風癲病)の記載		安南, 黎朝おこる (~ 1009)	981
993 (正暦4)	秋, 疱瘡流行				
998 (長徳4)	疱瘡流行, 死者多数				
999 (長保1)	藤原道長(966~1027) 右大臣となる				

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1000 (長保2)	この冬から翌年夏まで 疫病流行				
1001 (長保3)		この頃、清少納言『枕草子』成る。 「白山の観音これ消えさせ給ふなど いのるものくるはし」「もの狂ほし きまでに見えし君達の云々」「をか しきこそもの狂ほしけれ」等々と「も の狂ほし」という言葉が随所に見ら れる		アフガニスタンのガズ ニー朝、インド侵入激 化：インドのイスラム 化すすむ	1001
1015 (長和4)	疫病流行			安南李朝おこり、大越 国と称す(～1225)	1010
1019 (寛仁3)	刀倅(女眞族)の賊、北 九州を襲う			デーモン王子クヌート： イングランド王となる	1016
1020 (寛仁4)	疱瘡流行、この年凶作			フランス系ノルマン： 南イタリアに侵入	1018
1025 (万寿2)	諸国に疱瘡流行				
1030 (長元3)	この春、疫病流行				
1040 (長久1)	京都、伊勢大風、京都 疫病流行		アラビア最高の医学者アヴィセンナ Avicenna 死す(980～1037) 脳が精神の座であると信じた。(ア ラビア)	イランにセルジューク ＝トルコ帝国建つ(イ ラン)	1037
1052 (永承7)	疫病流行	末法思想流行		北宋で罪人を解剖し図 を描く(シナ)	1045
1058 (康平1)		この頃『病草紙』(絵物語)出来上る。 その中に「狂女の図」等ある			
1070 (延久2)		京都岩倉村の大雲寺に精神病者集ま る		ノルマンディー公ウイ リアム、イングランド 征服	1066
1072 (延久4)		岩倉大雲寺(京都市左京区岩倉、現在 の倉上町)後三条天皇(1034～1073)			

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1072 (延久4)		第3皇女佳子内親王精神異常があった時、靈告によって岩倉大雲寺の閻伽(あか)井戸の水をのませて治したとの記事がある。それ以来、精神病者がそこへ集ってきて付近の農家が世話をした。岩倉癡狂院の前身。その成立はベルギーのゲールのコロニーに酷似			
1082 (永保2)	諸国早魘				
1084 (応徳1)	疱瘡流行, 京都大風				
1088 (寛治2)	丹波雅忠歿 唐方医書を要約した救急手当療法の書『医略抄』の著者父忠明(本草学家)の教えをうけ本草を学び14歳で後一条天皇の典薬頭付になる。30歳で丹波介に任命, のちに後冷泉天皇の薬の処方奉仕, 新制の施薬院使に補せられ施薬院を皇室専属から開放し, 専任官を置いて民間の医術業務にまで及ぼす	平安後期, 『今昔物語集』に狂気の話あり		十字軍の遠征始まり, アラビア医学がヨーロッパに伝わる	1096
				十字軍, イエルサレムを陥れ, イエルサレム王国を建認(~1291)	1099
				この頃火薬発明, 実戦に用いる(シナ)。	1150
1163~ (長寛1)	鎌倉時代	橘忠兼偏『伊呂波字類抄』3巻。この中に「ものくるはし」と訓している	ボローニヤに大学創立, ヨーロッパ最初の大学(イタリア)		1158
1165 (永万1)	戦乱つづき金創医学(外科学)が盛んとなる			尼僧ヒルデガールト Saint Hildegard von Bingen 死す。ドイツ最初の女医とされる(1098~1179 ドイツ)	1179
1200 (正治2)	京都に水痘が流行				
1207 (承元1)	この夏以後, 痘瘡流行				
1214 (建保2)		禅僧栄西宋より帰り, 独自の医説を			

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1214 (建保2)		まとめて『喫茶養生記』2巻を著し、源実朝に献呈する。その中で、アルコール中毒、宿酔、頭痛の治療を説く			
1219 (建保7)		この頃（建保年間1213～1219）『宇治拾遺物語』成る。精神病の記載あり		セルジューク＝トルコ滅ぶ。ジンギス汗西征（～24）	1219
1224 (元仁1)	疾病流行		モンペリエ (Montpellier) に医学校作られる（フランス）	モンゴル軍ホラズムを滅ぼす	1220
1235 (嘉禎1)	京都に疱瘡流行			モンゴル、金を滅ぼす	1234
1258 (正嘉2)	大飢饉、疾病流行			モンゴル、バトウ、ヨーロッパへ遠征（～42）	1236
1259 (正元1)				アルノー Arnaud de Villeneuve 生る。モンペリエ医学校で医学の実証主義を強調した医師（フランス）	1240
1274 (文永11)	文永の役			南宋の宋慈が法医学書『洗冤録』を表わす	1247
1275 (建治1)		無住一円『沙石集』作る。精神病に関する記載あり		フビライ汗、国号を元とす（～1368）	1271
1281 (弘安4)	弘安の役		聖アルベルト Saint Albert von Köln 死ぬ（1193～1280）ドイツのドミニコ会神学者・哲学者、脳室が精神能力の産であると認める。聖トマス・アキナスの師	元、南宋を滅ぼす	1279
1283 (弘安6)		悪疾流行により、全国諸寺社に祈る			1280
1287 (弘安10)	僧忍性、鎌倉桑ヶ谷に				

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1287 (弘安10)	療病院建設, 空前の救療事業を行なう。(20年間に57,250人を診療し46,800人治し, 10,450人死す)				
1288 (正応1)	丹波行長『衛生秘要抄』を著わす。日本の文献で衛生の語の入った初めての著作。 惟宗時俊「医学千文字」著				
1302 (乾元1)		梶原性全, 医療普及のための最古の邦文医学全書『頓医抄』50巻を著わす。その中に精神病を記載			
1303 (嘉元1)	僧忍性死去。勅により菩薩号を賜はる			この頃銃砲火薬発明される(ドイツ)	1314
1315 (正和4)		梶原性全ついで家学の絶滅をおそれ宋以前の医書を集成した『万安方』50巻を著わす			
1324 (正中1)			モンデイノ Mondino de Luzzi が『解剖学』を出版, その中で神経組織にふれた部分はずか(イタリア)		1316
				マルコポーロ没(『東方見聞録』は1299年の著)	1324
				英仏百年戦争おこる(～1453)	1339
				ヨーロッパ全域にペスト大流行(～51)	1346
1360～61 (正平15～16)	疫病流行 この頃, 僧有隣が救世の目的で日本化した医書「福田方」12巻を著わす				
1366 (正平21)	飢饉, 疫病流行				
1367 (正平22)	室町幕府療病院を京都に建設。陳延礼帰化して博多に医をなす。竹田昌慶明に渡り医を学ぶ			明建国, 元, 漠北に逃れる(北元～91)	1368

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1373 (文中2)	畿内に疾病流行			モンペリエ医学校での 人体解剖合法化(フランス)	1377
1394 (応永1)	和船の大陸との交通盛 んになる(14世紀半ば)	三河国羽栗の光明山順因等(愛知県 岡崎市羽栗町)応永年間(1394~1426) より、癲狂者の灸と漢方薬による治 療が始められ今日に及ぶ。灸と漢方 薬による精神病の治療は3代善裕法 印に始まったと推定される。現在の 羽栗病院		高麗滅び、李氏朝鮮建 国(~1910)	1392
1420 (応永27)		幕府第4代將軍足利義持病む、軍師 高天陽師定棟等妖術をもって呪咀せ りとしてこれを讃岐に流し、11月高天 を殺す		『永楽大典』なる	1408
1430 (永享2)	僧允能室町幕府第6代 將軍義教の病を治し効 あり、名医の評高し		ヴァレンチア(Valencia)にヨーロッ パにおける最初の精神病者収容施設 (casa de orates)できる(スペイン)		1409
1463 (寛正4)	疫病(三日病)流行、死 者多数			オスマン=トルコ、東 ローマ帝国を滅ぼす 百年戦争終わる	1453 "
1470 (文明2)		僧有隣著『福田方』(広隆寺執行・房 秀祐書写す)に「癲癩」の記載		経国大典なる(朝鮮)	1470
1472 (文明4)	細川悦元医書『靈蘭集』 を編し、横川景之に序 を書かせる				
1492 (明応1)		この頃より、癲、癩、狂を別の説行 なわる	アルサス(Alsace)にはじめて、てん かん患者の病院設立(フランス) コロンブス西印度諸島発見タバコと 梅毒とを欧州に移入(イスパニア)		1486 1492
1502 (文亀2)			支那に楊梅瘡(梅毒)流行、(広東より 始まりし故広東瘡といわる)		1502

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1513 (永正10)	梅毒の関東侵入「此年天下にタウモという大なる瘡出て平癒することや久しその形たとえば癩人の如し、食は達者なる人のようにすすむなり」(「妙法寺記」妙法寺は甲斐国にある)		トーマス・モア Thomas More 『ユートピア』刊行。(イギリス)		1515
1520 (永正17)	典薬権頭丹波親康退官 歯科開業。 この頃、田代三喜が関東で活躍し、明医学を普及			レオナルド・ダ・ヴィンチ歿(1425～1519)	1519
1528 (享録1)	堺で初めて医書を出版		ヒポクラテスの著書翻訳、再発見される	イスパニア人コルテス、メキシコ征服(1519～)	1520
			この頃、パラセルサス Paracelsus (1493～1541)による「白痴」の医学的研究		1528
			マインツ市の印刷・書籍業兼ドイツ語学校長ペーターヨルダン Peter Jordan は「物覚えの悪い粗雑な能力の持主」のための読み書き指導書『無学者手引き』出版(ドイツ)		1530
			フィッツヘルバート、現代の概念に通ずる白痴の判別基準提唱(イギリス)		1533
			ポルトガルの医師ギーダド Giudad グラナダに精神病者を医者によって手厚く世話する病院創立(スペイン)	パレーが創傷治療の原理を確認し、近世外科学を樹立(フランス)	1534
				ヴェサリウス Vesalius の『6枚つづきの解剖図』出版、近世解剖学の夜明け(ベルギー、イタ	1537
					1538

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1543 (天文12)	種子島にポルトガル人鉄砲を伝える。(天保12年)			リア) コペルニクス没(1473～1543)死の直前地動説を発表	1543
1549 (天文18)	フランシスコ・ザヴィエル、鹿児島にキリスト教を伝える		ロンドンのベスレヘム聖マリア僧院がベトラム Bedlam 癲狂院となる(イギリス)		1549
1552 (天文21)	ルイ・アルメイダ Luis Almeida (ポルトガル人外科医) 来日し、平戸で伝道			セルヴェト血液循環のいとぐちを公表(スペイン)	1553
1555 (弘治1)	アルメイダ、豊後府内に育児病院を造り、ついで府内病院という総合病院となった。南蛮医方の初め				
1557 (弘治3)	豊後国主大友宗麟、府内(大分のこと)救済院を建設し、ルイ・アルメイダを主宰とし癲病者と貧窮病者を収容治療、日本の西歐式病院の始め ヴィレラ・チアズはマラッカで薬を調達して来日府内病院に入る		フェルネル Jean Fernel 没(1486～1557)(メデイチのカテリーナ・アンリ2世の医師で精神病を分類<1.人病 2. 無熱病 3.精神衰弱>した。それぞれ小分類をもつ		1557
1562 (永禄5)		アルメイダはミゼル・コルデア Miseri Cordia の組を設け豊後の朽網肥前の生月等で貧者病者等を救う。府内病院の内科外科の成績と並記して洗礼で病を癒し聖水が薬として用いられ狂気せる女が洗礼で忽ち平癒し癲病者が祈りにより快癒した等の記載あり。祈禱によって狐憑きを落した	ヨハン・ワイエル Johann Weyer 又は Wier (クレーヴ公国の医師)『悪魔の幻影と瞞着・醜く、巧妙で有害な魔術師に関する歴史。論争および講義……』刊行。魔術思想に対する最初の抵抗者(ドイツ)	セツルメント制度確立(フランス)	1566
1574 (天正2)	曲直瀬道三の主著『啓		メキシコにアメリカ大陸最初の精神病院設立		1567

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1574 (天正2)	迪集』8巻成り、天皇に献上。医学の独立、仏教との分離				
1582 (天正10)		アルメイダは鹿児島で悪魔に憑かれた精神異常者の青年と少女を祈禱で全治せしめた			
1583 (天正11)		アルメイダ歿	ブライト Timothy Bright (1551～1617) メランコリーに関する英文最初の著を出す		1586
1587 (天正15)	キリシタン・バテレン追放令発布により府内病院閉鎖		ニコラ・ルポア Nicolas Lepois 歿 (1527～1587) メランコリー、てんかんの疾病単位を確立。(フランス)		1587
				イスパニアの無敵艦隊破れ英の勢い盛んとなる	1588
				ヤンセン複合顕微鏡を発明(オランダ)	1590頃
1592 (文禄1)	文禄の役(～93)：豊臣秀吉、朝鮮に出兵	『節田集』の『天正体』(堺版) である。癡狂の記載あり	スウィンバーン Swinburne 白痴と痴愚の判別基準提唱		1591
1595 (文禄4)	曲直瀬道三歿 (1507～1595) 京都市井の医家として活躍			明の李時珍、独力で大著『本草綱目』52巻を完成、本草学の革新(シナ)	1593
1598 (慶長3)	フランシスコ・ザビエル来住。豊臣秀吉歿(1537～1598)				
1599 (慶長4)		本多左内が泉州南部七山の浄見寺内に爽神堂(大阪府泉南部熊取町七山)を創設。家伝の秘薬と仏への祈禱を通じ、又灸法を以て精神病者の施療を始める。(明治4年、12代本多義徳は岸和田県より「狂癪治療一科医業免許」を受け更に明治15年、13代本多栄の代に始めて僧籍を離れて		イギリス、東インド会社を設立。パリに慈善病院(Hopital de La Charite) 創立	1600

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1599 (慶長4)		本多病院を建設。明治23年七山病院と改称, 今日に至る)		ポルトガル人オーストラリアを発見.	1601
1602 (慶長4)	バアデレ・イルマンは江戸浅草に幕府の許可を得て病院を建てた。ブルギリョスは医術の心得があり病院で働いた。癩患者50人も収容				
1603 (慶長8)	徳川家康江戸幕府開始				
1608 (慶長13)	曲直瀬玄朔著『医学天正記』甘采の製法を記す(シナ・日本にては怪粉と称し古くより医薬に使用さる)				
1609 (慶長14)	島津氏, 琉球に出兵		ラ・パリュのマドレーヌ Madelaine de La Palud 妖術で治療したとして火烙の刑(フランス)		1611
				後金の建国(～36)(満州)	1616
				ネベル, 対数法を発見	1617
				アセリが乳麻管を発見(イタリア)	1623
1630 (寛永7)	禁書令公布			ウィリアム・ハーヴェイ. 血液循環の理を発見す. 近世生理学の確立(イギリス)	1628
			アンジュのジャンヌ Jeanne des Anges 魔術療法の理由で告発される(フランス)		1632
1639 (寛永16)	3代将軍家光鎖国体制整える. ポルトガル船の来航禁止			後金, 国号を大清国と改める(～1912)朝鮮服属	1636
1641 (寛永18)	大阪新町遊廓始まる. 寛永～慶安のころ男色流行		シャラントン(Charenton)に精神病院創立.(フランス)		1642
1648 (慶安1)	湯女にまた禁令				

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生資料	外国における精神衛生資料	外国における一般事項	年 代
1649 (慶安 2)	蘭館医カスパー Casper Schaemburger が長崎に来て医術を伝う		デカルト René Descartes (1596～1650) (人間機械論, 二元論者) 『情熱論 Traité des passions』刊行		1649
1650 (慶安 3)	武家の男色禁止. 墮胎の看板を禁止				
1656 (明暦 2)			パリにサルペトリエル(Salpêtrière) 病院とビゼートル(Bicêtre) 病院創立. 浮浪者, 売春婦, 性病患者とともに精神病者を収容		1656
1660 (万治 3)				マルピギー毛細血管を発見(イタリア)	1660
1665 (寛文 5)				マルピギー白血球(イタリア) フックが細胞を発見(イギリス)	1665
				グラーフが卵胞を発見(オランダ)	1668
			ルイ14世, 1670年以後魔術を行なうことを禁止. シルヴィウス (Sylvius Francois de Le Boe) 歿. (1614～1672) 精神病の理解に生化学的観念を取り入れた		1672
1674 (延宝 2)	関孝和 『発微算法』刊			和蘭レウエンヘーク, 人血液中に赤血球発見	1673
1675 (延宝 3)			ウィリス, Thomas Willis 歿(1622～1675) 英国の医師. ヒステリーを研究した	和蘭ブランカルト血管内注射を始む.	1675
			ヘッファー Höfer W. クレチン病に関する初の科学的論考を出す. (オーストリア)	レウエンフークが細菌を発見.(オランダ)	1676
1679 (延宝 7)	名古屋玄医『医方問余』を著わし, 古医方の開祖となる			ハムが人の精子を発見(ドイツ)	1677
1680 (延宝 8)	幕府墮胎を厳禁. この頃, 本木良意がレムメリンの解剖書を訳す				

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1686 (貞享3)		蘆川桂洲の『病名彙解』に江戸時代に いわれた癲癇・痲症・癲狂について 記している	シデナム Thomas Sydenham 歿. (1624-1689)英国の医師, ヒステリ ーを研究した		1689
1690 (元禄3)	蘭館医ケムペル長崎に 来る		ロック G. Locke は白痴 (推理しな い) と精神病 (誤った観念から推理 する) とを区分(イギリス)		1690
1695 (元禄8)		岡本一抱 『病因指南』(癲癇ハ和ニ謂 ユル久津知ニシテ, 狂ハ俗ニ云フ機 知加比又毛乃久留比ナリ)		スペイン継承戦争おこ る(～14)プロシア王国 設立	1701
1713 (正徳3)	貝原益軒『養生訓』著			アメリカにおける英仏 の植民地戦争おこる (～13)	1702
1715 (正徳5)	貝原益軒の『大和本草』 刻成る 香川修奄『傷寒論』翻刻				
1720 (享保5)	幕府(吉宗)は洋書の輸 入禁止をゆるめ邪教宣 伝に関係ないものに 限り講読を許可. この ため, 蘭学ますます繁昌				
1721 (享保6)	幕府小石川に薬草園設 立 (後の東大理学部付 属植物園)			トルコの人痘接種法ヨ ーロッパに伝わる (イ ギリス) パルヘインが分娩用鉗 子を考案(ベルギー)	1721
1722 (享保7)	将軍吉宗が小石川薬草 園内に養生所を設置			ワークハウス・テスト 法制定(イギリス)	1722
1729 (享保14)	『酒説養生論』守部正稽 著, 香川修徳『一本堂 薬選』刊行. 実証的薬 物書の初め		チューク William Tuke 生る(イギ リス)		1732
			スタール Georg Ernest Stahl (16		1734

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1736 (元文1)		河合尚久『無冤録』刊行。日本最初の法医学書。中国には『平冤録』がある	60～1734) 歿、燃素(phlogiston)と靈魂説(マニスム)で著明なドイツの生理学者		1734
1738 (元文3)	安芸国の医吉益東洞京都に出て古医方を唱道す		プールハーヴェ Hermann Boerhaave (1668～) 死ぬ。オランダの機械的生理学者		1738
1740 (元文5)		香月牛山(1625～1740)歿。『牛山活套』において癲狂と痲症を分ち発症の原因を数種に分つ			
1741 (寛保1)	根来東叔が人骨を観察して『人身連骨真形図』を作る。翌年『眼目暁解』を著わす		ホフマン Friedrich Hoffmann(1660～1742) 歿。魂と肉体の区別を否定したドイツの医師	セルジウス撰氏体温計を作る	1742
			浮浪法(Vagrancy Act)制定。治安判事に強暴な狂人(Violent insane)の拘禁の権限を認める。多くは監獄・懲治院に監禁(イギリス)		1744
1745 (延享2)			ピネル Philippe Pinel 生る(フランス)	英国にて理髪師と外科医と分離	1745
1744～ (延享1)	人痘接種法シナより長崎に伝わる				
1746 (延享3)	貿易制限 (蘭船2隻・清船10隻)			独国メッケル迷走神経を記載す	1748
1752 (宝暦2)			ペンシルヴェニア(Pennsylvania) 病院に精神病者収容(アメリカ)		1752
1754 (宝暦4)	山脇東洋ら先例を破って、京都の紙屋川品の刑場で死刑囚の屍体を解剖し(良沢・玄白の明和の解体に先立つ18年)旧説の誤りを指摘して『臍志』を著す。(1759年)刊行	香川修徳(1683～1755)歿。『行全医言』において、痲の一篇を掲げ、精			

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
		神病を詳述			
1756 (宝暦6)	公立医学校の始め(郊外建部に繁慈園開設)『校正病因考』後藤退山(1659~1733)著				
1756 (宝暦6)	田村藍水江戸湯島に物彦会(薬品会ともいう)を始めて開設す				
1757 (宝暦7)	杉田玄白西洋外科医術を唱える		バチー William Battie(Bethlem病院長)『狂気教科書』出す		1758
1764 (明和1)	『類聚方』吉益東洞(1701~1773)著 永富独嚙庵の医事評論集『漫遊雑記』に出る		モルガニー Giovanni Morgani (1682~1771)『解剖所見による病気の所在と原因について De sidibus』体液病理学を排し病理解剖学を樹立。麻痺と痴呆について脳の変化を研究す(イタリヤ)	アウエンブルゲル打診法創始	1761
1765 (明和2)	幕府の医官多紀安元江戸神田佐久間町に医学教授所躋寿館開設。のち(1791)医学館と改め官立となる			フィラデルフィア医学校創立、米国最古(アメリカ)	1765
1766 (明和3)	正常胎位を確認した賀川玄悦の「(子玄子)産論」(産前75難産後125難を説く)日本最初の産科書との評がある				
1769 (明和6)	吉益東洞『医断』刊				
1771 (明和8)	吉益東洞『薬徴』刊				
	杉田玄伯・前野良沢・中川淳庵・石川玄常等江戸小塚原刑場にて女屍の解剖を『ターフェル・アナトミア』を参照して同書の精確に一同感嘆してその翻訳			アークライト(32~92)紡績機の発明:この頃より産業革命進行(イギリス) ジェームス・ワット(1733~1810),蒸気機関を発明(イギリス)	1768 1769

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1772 (安永1)	を決意す 山脇東門(東洋の子)1 婦人の屍を解剖し図説 を著す 吉益東洞(万病一毒説 を説いた)歿。(1702~)	永井慈現, 越後鶴森・永井山順因寺 に鶴森狂疾院開設(日本最初の精神 病院の一つ). 明治27年永井精神病院 となり, 大正12年廃止		シューレが酸素を発見 スタールのフロギスト ン説の潰滅(ドイツ)	1772
1774 (安永3)	杉田玄伯, 前野良沢翻 訳の『解体新書』5巻成 る		ローレンツで精神病者取り扱いに関 する法律制定(この種の法律ではヨ ーロッパ最古)(イタリア) 私立癲狂院規制法制定(イギリス)	コッソノ脳脊髄液発見 (イタリア)	1774
1775 (安永4)			メスメル Anton Mesmer (1734~18 15) ドイツの医師, 催眠術を医療に 応用		1775
1776 (安永5)	平賀源内, エレキテル 完成		カレン William Cullen (1712~1790 エジンバラ教授) 神経疾患の総称に 神経症 neurosis を創始	王立医学会が創立され る(フランス) 独立宣言発す(アメリ カ)	1776
1777 (安永6)	平賀源内歿			ラヴォアジエ(1743~ 1794) 呼吸によるガス 交換の理を明らかにす る	1777
1779 (安永8)			メスメル『動物磁気の発見』刊行		1779
1780 (安永9)			慈善協会設立(フランス)		1780
1785 (天明5)				パリ条約: イギリス, アメリカ合衆国の独立 承認	1783
1786 (天明6)	江戸幕府第10代将軍家 治重態となる. 四圍の 社寺奉幣が加持祈禱を 乞う. しかし家治は「死	山根与右衛門『人狐物語』憑きもの筋 の俗信を実例をあげて論ずる		カートライト(1743~ 1823) 動力織機を発明 (イギリス)	1785

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1786 (天明6)	生は天数定まる事ぞ。 僧侶巫祝の知る所なら んや。もし我祈らんには 伊勢日光両宮の他ある べからず」といって 迷信を排す 初の蘭学塾芝蘭堂を大 槻玄沢が設立				
1787 (天明7)			ティーデマン・D 『児童の精神能力 の発達に関する観察』(近代児童心理 学の最初の文献)(ドイツ)		1787
1789 (寛政1)	植松九八郎、解剖禁止 の建言。「病治の益にな るべき儀に候はばせめ てももの事にも候へども 臟腑を目に観とて決し て病治の助けに相成り 候事これなくたとへば いたづらに不仁の所作 をほしいままにすると 申すべきて候へば厳し く御停止遊されしかる べしと存じ奉り候」			フランス革命起る ワシントン、初代大統 領となる(在任~97)	1789
1790 (寛政2)	異学の禁	伴蒿蹊『近世畸人伝』に風狂や異形の 人記す。その中に「文展(おみひろ げ)の狂女」等がある		貴族制廃止(フランス)	1790
1791 (寛政3)	多紀氏の私学躰寿館を 収めて官学とし医学館 と改称す			立憲君主制憲法制定 (フランス)	1791
1792 (寛政4)	この年のころ、医学館 (和歌山藩)好生堂(米 沢藩)、成徳書院(佐倉 藩)、明倫堂(金沢藩)を 創立し医術教育をする		ピネル Ph. Pinel、ピセトール病院 において精神病者を鎖の拘束から 解放する(8月25日)	王政廃止、第1共和制 公布(フランス)	1792
1793 (寛政5)	宇田川玄随(槐園)ヨハ ンネス・ゴルテル Johannes de Gorter の内科書を訳し『西説			第1回対仏大同盟(~ 97)	1793

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1793 (寛政5)	内科選要』18巻として 板行す。(日本最初の西 洋内科書の訳書			J. ハンターが創傷治療 の新知見を発見(イギ リス), この頃機械論と 生氣論の論争盛ん	1794
1795 (寛政7)	杉田玄白と建部清庵の 質疑応答集』和蘭医事 問答』出版	津村涼庵『譚海』河内国の源氏の滝が 狂人に効くと語る。巻12に「狂人の 尼勇力の事」という話がある	ピネル, サルペトリエル病院の医長 となり精神病者の鎖を廃止す		1795
1796 (寛政8)		中神琴溪『生々堂医譚』岩倉の不動の 滝について語る	テューク W. Tuke (英国のクエーカ ー教徒の商人) ヨークに保養所を創 設。家庭的環境で精神病者を治療 (イギリス)	エドワード・ジェンナ ー牛痘接種による天然 痘予防法を発見	1796
1797 (寛政9)	幕府甲府(山梨県)に医 学館開設			ナポレオン, イタリア 諸国征服 アンデルシュ脳神経を 12対とす(ガレンは7 対とした) 英国ダロトン赤色色盲 を始めて報告	1797
1798 (寛政10)				ジェンナーが種痘法を 発表(イギリス)	1798
1800 (寛政12)	伊能忠敬, 蝦夷地測量		アヴェロン ¹⁾ の森にて11, 12才の少年 つかまる(フランス) ボナテール Bonaterre 『アヴェロ ンの野生児に関する歴史的ノート』 (フランス)	第2回対仏大同盟(～ 1802)	1799
1800 (寛政12)			犯罪性狂人法(Criminal Lunatics Act)制定(社会防衛的立場からの精 神障害者抑圧立法)(イギリス)	英デービー笑気(20)の 麻醉作用説出づ	1800
1801			イタール J. M. G. Itard アヴェロン の野生児に関する教育実験の第1報 告発表→'07第2報告(フランス)	ジェファソン, 米国大 統領となる(在任～09)	1801
1802 (享和2)	桂川周甫顕微鏡用法を 述ぶ(日本最初の顕微 鏡の医学上の応用)		カバニー Cabanis 『人間の肉体と精 神の関係』著(フランス) ピネル「精神錯乱の医哲学提要 Traité médico-philosophique de l'aliéna- tion mentale.』刊	フランス医学の雄ビシ ャー Xavier Bichat 歿 (1771～1802)	1802

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1804 (文化1)		仙滝山竜福寺で病者の収容治療をはじめめる。(千葉・海上郡海上町にあり、滝不動・岩井の滝とよばれ病棟をもち灌水治療を行なう)昭和25年廃止	ヴァイゼ T. Weise ツアイツの貧民学校で学力遅滞児(Zuruekgebliebenen Kindern)のための補習授業を行う(ドイツ)		1803
1805 (文化2)	伏屋素秋の尿生成に関する実験的研究公刊 宇田川玄真著『医範提綱』刊	紀伊国華岡青洲(1760~1835)麻酔劑通仙散(曼陀羅草入分, 草, 烏頭・白芷, 当归, 川等各二分これを細挫し, 細湯に投じ攪拌後滓を去り内服す)による麻酔 2~3時間で効あり, シンプソンのクロロホルム麻酔発見に先立つこと42年である		ナポレオン法典成立. ナポレオン皇帝となる (在位~15)	1804
1807 (文化4)		香川修徳, 精神病をはじめてきちんと取りあげ『一本堂行余医言』巻五を著す		第3回対仏大同盟結成 牛痘接種法シナに伝わる 神聖ローマ帝国解体, オーストリア帝, ドイツ帝位放棄(ドイツ)	1805
1808 (文化5)	間宮林蔵, 樺太・シベリヤを探検. 間宮海峽発見 10月4日に入浴すると寿命を減じ或は即死するとの迷信の禁浴日が説かる.	田村玄仙『療治茶談』(精神病は種々の毒気が心臓を侵すことによって発するものであるから, 痲症とするより心疾と称するのが至当である) 武田癲狂院の創始. 安芸, 宮内(広島県佐伯郡甘日市宮内)で武田一逕が施療を始む. 宮内村では武田一逕とその子文敬, 森田宗碩の名が知られる. 一逕(1800~1834)はこの年同村専念寺の養子となり, 同寺に伝えられた「癲癲病秘法」を中心に施療するようになった. 明治33年武田精神病院となる	州立養育院法(County Asylums Act)制定 一般混合労役場から精神障害者を分離するために, 治安判事に州立癲狂院の設立の権限を与える(イギリス)	独国のフリップス・ボジニー, エントスコープを発明し内臓検査を推奨す フルトン(1765~1815) 汽船を発明(アメリカ)	1806
1810 (文化7)				奴隷貿易禁止.(アメリカ)	1807
1811 (文化8)	幕府天文方に蕃書和解御用掛を置き, 初めて		エスキロール Jean-Etienne-Dominique Esquirol(1772~1840)サルベ	ベルリン大学創立, 医科大学設置(ドイツ)	1808
					1810
					1811

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1812 (文化9)	西書を翻訳	只野真葛の回想記『むかしばなし』に「かげの病(わずらい)」の話がある	トリエール病院医長となる(フランス)	イギリス・アメリカ開戦 ナポレオン、ロシア遠征、退却	1812
1813 (文化10)	三谷僕が人体の解剖をみて漢蘭両説を折衷し『解体発蒙』を著わす			解放戦争はじまる(～14) ナポレオン退位、ルイ18世即位	1813
1815 (文化12)	『蘭学事始』杉田玄白			スティーブソン(1781～1848) 汽車を発明(イギリス)	1814
1816 (文化13)	中條帯刀(江戸の産科医)の無痛分娩法、評判となり「中條流」として流行		教師グッゲンモース G. Guggenmoos が最初の白痴の教育的施設をザルツブルグに創設。1835年閉鎖(オーストリア)	ナポレオン百日天下	1815
1817 (文化14)	甲州(山梨県)の医師初めて葡萄酒製造 杉田玄白歿。(1733～)ジェンナーの種痘法初輸入。天保12年頃江戸洞海、大石良栄の二人和蘭苗を取寄せ	喜多村鼎(良宅)『吐法論』著わす。精神病についても叙述。香川修得の学説を一步すすめ、日本最初の独立した精神病学書	『エディンバラ・レビュー』誌が『精神異常者問題』を掲載。私立癲狂院、ワークハウスの白痴・狂人の悲惨な実態を告発し、分離処遇を提案(イギリス)	独逸のセルチュエルナー阿片の主成分「モルフィン」を発見	1817
1818 (文政1)		『人狐弁惑談』陶山大祿。憑きものについて、人の精神かかわる病的現象であると論ずる	精神的異常児のための組織的教育保護始まる(ポーランド)	英国パーキンソン振戦麻痺を記載	1818
		石丸癲狂院(大阪府豊中市熊野田)文政年間(1818～1829)に大阪城代の御殿医者であった漢方医石丸周吾が精神病専門の収容施設を設置し、癲狂者の治療に当った。処方漢方薬で下剤と鎮痛剤を混合したもののようであった。ここにあった「躁狂室」は京都癲狂院の「護体室」と共に特異な	ハートフォード聾啞院が数人の白痴児を収容、教育する。(数年間でかなりの進歩をみせる)(アメリカ)		
			エスキロールは「白痴は病気ではなく状態である」として精神病と白痴の相違を強調(フランス)		
			シャラントン病院の医師ベールA.L.J. Bayle, 進行麻痺に関する学位論文『Recherches sur l'arachites chroniques』を発表。この疾患の病因を		

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1825 (文政8)		橘南谿『北窓瑣談』で鬱気の病ひについて語る	エスキロール、シャラントン精神病院の医長となる		1825
1826 (文政9)	大槻玄沢がクルムス解剖書を改訳した『重訂解体新書』刊行	青地林宗翻訳『興地誌略』で「イギリスの病院に白徳藍院(ベトラム)と名く者、狂癲等150人置べし」と紹介	ピネル歿(1745~1826)		1826
1827 (文政10)		『病因精義』(10巻)小森元浪(桃鶴)著. その中、頭部の項で癲狂、鬱愁、健忘、魔等について述ぶ		ロンドン大学設立	1827
1828 (文政11)	シーボルト事件おこる: 天文方高橋景保、国禁の日本地図をシーボルトに贈り、処罰される. 翌年シーボルト国外追放		フェリュウ G. M. A Ferrus ビゼートル精神病院に白痴病棟を開設(フランス)	ウェーレルが尿素を合成(ドイツ)	1828
			ハウ S. G Howe パーキンス訓盲院で盲精薄児を教育(アメリカ)		1830
			ファルレ Falret はパリ郊外の女子救貧院サルベトリエールに白痴女性の収容棟を開設(フランス)		1831
1833 (天保4)	宇田川榕庵(1798~1846) 蘭学者・自然科学者・医者で西洋自然科学、特に植物学・化学の紹介者として『植学啓原』('33年), 『舎密開宗』('37年)等を著す		ヴォアザン H. F. Voisin 私立の白痴学校を開設(フランス)	シュレルルの大著「人体生理学全書」の刊行始まる(ドイツ)	1833
			エーレンベルグ、神経細胞と神経繊維を神経組織構成の主要素とす		
			救貧法大改正、「低位処理」を原則とし、「貧困精神障害者」の院外救助を認める. 危害を加える狂人、精神異常者、白痴のワークハウス収容を禁止(イギリス)		1834
			ヴォアザン、イッシィに「正統派」と称する白痴施設開設(フランス)		
			牧師ハルデンヴァンク K. Haldenwang ヴィルドベルクに白痴施設を創設→'47マリアベルグに移る(ドイツ)		1935
1836 (天保7)			デュックス Mark Dux 言語中枢が左大脳半球にあるを証す		1936

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1837 (天保8)	緒方洪庵、適々塾を開く	多紀元堅『時還読我書』で「大平日久く、人驕奢に長じ、嗜慾益多く、志願の遂ざるより、此病多くなりぬ」と精神病発生の社会的背景に目をやる	レマーク、神経軸索を発見(フランス) (フランス)	1836	
1838 (天保9)			フルーラン Pierre Flourens 延髄の呼吸中枢発見		
1839 (天保10)	蛮社の獄	鉄塔山天上寺(岐阜県不破郡延中町宮代)は天台宗醍醐寺を本山とし、明治維新まで修験道場であった。天保11年に開設。文久3年(1863)から癲狂者の治療を始める	セガン Q. O. Seguin, イタールの示唆とエスキロールの指導のもとに、パリの私立学校で白痴教育を行う(フランス)	1837	
1840 (天保11)	看板にオランダ語使用を禁ず		フランス精神病患者救済法(Loi du 30 juin 1838 sur les aliénés) 制定	1838	
			シュワン Schwann 神経軸索鞘を発見(フランス)	1839	
			エスキロールは、会話の可否を白痴と痴遇の判定基準とする(フランス)		
			児童保護法制定(プロイセン、ドイツ) シュワンが細胞学説を樹立(ドイツ)	1839	
			サルベトリエール病院に、患者救済会(Société de patronage)が創設され、病院外治療のモデルとなる(フランス)	1840	
			エスキロール歿(1772~1840)その直前、『衛生学および法医学との関連において考察された精神病』(Des maladies mentales considérées sous les rapports médico-hygiénique et médico-légale) 著	ハイネ急性小児麻痺を発表 アヘン戦争おこる(〜42)	
			精神病院医師会結成。のちの王立医学心理学会に発展(イギリス) 機関誌「The Asylum Journal of Mental Science」創刊。→ British Journal of Psychiatry.	1841	

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1842 (天保13)	新宮淳庭(京都の医師) 順正書院を完成. 体系的 医学教育を行なう. 京都医学研究会の基礎 となる		デイクス Dorothy Lind Dix は当時 登録されていた9,000人の精神障害 者のため病院の開放化と救済方法の 改善の十字軍運動を開始した(アメ リカ)	クラークとロング初め てエーテル麻痺を行な う(アメリカ)	1841
1843 (天保14)			グッゲンビュール J. J. Guggenbuhl , アーベントベルグに特殊治療教育所 (クレテン対象のコロニー) 設立 (ス イス)		セガン, サルペトリュール病院で組 織的に白痴児教育を開始(フランス)
1844 (弘化1)	フランス艦, 琉球に来 航して開国を要求. オ ランダ使節国書を以て 開国を勧告(翌年拒絶)		ダメロウ H. Damerow によりドイツ 精神神経学会創立(ドイツ)		1843
			パリの病院, 救貧院長会議, セガン の教授法をビセートル院の白痴児に 適用を決定. セガン, ビセートル病 院で90人の白痴を組織的に教育 (フ ランス)		1844
			ブレイド William Braid 誘発睡眠 を研究, 催眠(hypnosis) の語を創始		
			バイヤルジェ Jules Baillarger (1809 ~1890) 『医学心理学年報 Annales médicopsychologiques』 創刊		
			セガン, ビセートルを辞任. 単独で 白痴教育を再開(フランス)		
			ホワイト姉妹, パースに白痴収容の アサイラム創設(イギリス)		
			ブリガム Amariah Brigham (1798~ 1849) 『アメリカ精神病誌(American Journal of Insanity)』 発刊 (メ リカ)		
			ダメロウ精神神経学機関誌『Allgeme- ine Zeitschrift für Psychiatrie und psychisch-gerichtliche Mediz- in』 創刊(ドイツ) 1949年廃刊		

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1845 (弘化2)	イギリス船、琉球に來航して開国を要求 伊東玄朴(1800~'71) オランダ渡來の牛痘苗接種を開始		ウッドワード B. Woodwards. やストリプリング(F. T. Stripling)の働きかけによりアメリカ施設医務長協会発足(→後にアメリカ医学・心理学会を経て、現在アメリカ精神医学会となる)(アメリカ) モロー・ド・ツール Moreau de Tour 『ハッシシと精神病』著 グリージンガー Wilhelm Griesinger 教科書を出す		
1846 (弘化3)	アメリカ海軍司令官ビッドル浦賀に來り通商を求む。幕府拒絶一英・仏・デンマーク船頻繁に來る	奈良林一徳、狂病治療所設立(小菅県葛西領小松川村) 明治20年小松川精神病院と改称し、大正8年東京府代用精神病院の指定を受けた。昭和14年江戸川区内に移転完了し、加命堂病院と改称した。次で昭和17年廃院した	セガン『白痴の道徳的治療、衛生と教育』科学アカデミーから獎を受け精薄教育のマグナカルタと称される(フランス) ドイツ最初の国立精薄施設(Staatliche Anstalt)がザクセンのフベルトスブルグに設立される アメリカ最初の州立感化院をウェストポロールに創立 ドイツ自然科学者医師会の中に精神医学部門が設立され、學術集會が行われる(ドイツ)	エーテル麻痺にモールトン成功(アメリカ)	1846
1847 (弘化4)	オランダ人再び開国を勧む			生理学者ヘルムホルツがエネルギー保存の法則を定式化(ドイツ) シンプソンがクロロホルム麻痺を分娩に応用(イギリス)	1847
1848 (嘉永1)	牛痘苗と聴診器が蘭館医モーニッケにより伝わる		英国ブレイド、催眠術始む パーキンス盲学校内に白痴児の実験	公衆衛生法成立(イギリス)	1848

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1849 (嘉永2)	眼科・外科のほか蘭方 医術を禁じ、さらに蘭 書の翻訳出版取締を強 化 蘭人種痘を伝う		学校特設(→'51. 州立白痴・精薄児 学校設立→'87 現州立フアーナルド 学校)(アメリカ)		1848
1850 (嘉永3)	猥りに蘭書を翻訳する を禁ず	今泉玄祐、『療治夜話』を著わし、移 精変気(精神転換)という精神療法を 説く 鈴木桃野、聞書『反古のうらがき』に 「狂人の勇」など、狂気の話がある	セガン、ナポレオンIIIの専制に抗し アメリカへ移住(フランス) レーシュ Rösch、雑誌『クレチン病 に関する観察(Beobachtungen den Kretinismus)』発刊(→'52, 第3号 で廃刊)(ドイツ)		1850
1851 (嘉永4)			ベルギー政府、ゲールのコロニーを 公認 フス Magnus Huss(1807~1890) ス トックホルム大学教授) Alcoholis- mus の語を提唱、急性型、慢性型を 区別	ホブソン著「全体新論」 出版 西洋医学の普及(シナ)	1851
1853 (嘉永6)	アメリカ使節ペリー浦 賀に来る		下院での精神異常法案(Lunacy Re- gulations Act) 審議でアシュレー卿 (後のシャフツベリー伯爵)は犯罪性 精神異常者の分離収容の必要性説く。 成立した法律では Lunatics(精神異 常)を総称として用い、idiots(白痴) insane(痲癲)を含むものと規定 (→ 62'救貧法でも同じ規定)(イギリス)	クリミア戦争おこる (~56)	1853
1854 (安政1)	日米和親条約調印、日 英・日露と条約調印		プロテスタント牧師プレイス(Brace C. L.)によって児童救護協会創設さ れる(アメリカ) ブリュッセルで国際救済事業大会開 催(ベルギー)		
1854 (安政1)			最初の保育所、ストックホルムに開 設(スウェーデン)	英仏同盟、ロシアに宣 戦	1854
1855 (安政2)	日蘭和親条約調印、日		ウィルヒョウ Rudolf Virchow (18	ベルナールがグリコー	1855

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1855 (安政2)	仏和親条約締結 幕府、洋学所設置を決める		21～1902) 神経グリア発見(ドイツ)	ゲンを発見(フランス) ウエルケル「ミクリトーム」発見 デュメニール、進行性延髄麻痺を記載	1855
1856 (安政3)	洋学所、蕃書調所として開校			パリ条約：クリミア戦争終わる	1856
1857 (安政4)	幕府の要請によりオランダ海軍軍医ポンペが長崎に来る、本格的西洋医学の教育始まる	『遠西名医扶蘭度察病亀鑑』ドイツのフーエランドの蘭訳を青木治斎(周弼)の和訳で日本最初の西洋内科診断書の翻訳本(全3巻)。この中に精神病、神経病の項あり	ブロム剤(鎮痙剤)使われる モレル Bénédict Morel (1809～1873)『変質論 Traité des dégénérescences』刊		
1858 (安政5)	日米修好通商条約調印 蘭・露・英・仏と条約調印 伊藤玄朴等江戸お玉ヶ池に種痘所(現在の東京大学医学部の始め)設立 幕府は嘉永2(1849)年制定の蘭方禁止令を解き将軍の重病治療のため蘭方医を侍医に任命し、官医の蘭方研修を許す 江戸にコレラ大流行			ウィルヒョウ細胞病理学を提唱し、病理学を革新(ドイツ) ダーウィン自然淘汰説発表(イギリス)	1858
1859 (安政6)	アメリカの宣教師ヘボン来日、神奈川で伝道・施療に従う シーボルト再び長崎に来たる		ハルレにドイツ最初の救助級(Nachhilfsklasse)設置(ドイツ)→以後各国に促進学級・補助学校が開設されることとなる	ダーウィン「種の起源」(進化論)を著わす(イギリス)	1859
1860 (万延1)	江戸で児童に種痘をす 種痘所が幕府直属となる 医学館において『医心方』出版 江戸に疱瘡流行	平尾魯僊が、事奇聞を集めた「谷の響」に狂女の話がある	ドイツの完全に独立した精神神経学としての総会(アイゼナハ)を開催(ドイツ) フェヒナー Gustav Theodor Fechner (1801～1887)『精神物理学要論』Elemente der Psychophysik』刊	ゼンメルワイス産褥熱の原因を解明し消毒法の端緒を開く(オーストリア) ピーボディ女史がボストンにアメリカ最初の幼稚園設立(アメリカ)	1860

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1861 (文久1)	種痘所を西洋医学所と改む 長崎の養成所落成（本格的洋式病院の初め） 緒方洪庵訳『扶氏経験遺訓』30巻の出版完結	伊藤玄朴始めてクロロホルム全身麻痺にて右足切断手術を行なう	各州に州立慈善委員会が生まれ、感化院・孤児院・刑務所・救貧院・精神病院の実態調査→白痴らの実態も明みに出され、管理が問題とされる→慈善局に発展(アメリカ)	リンカーン、大統領となる(在任～65)	1860
1862 (文久2)	伊東玄伯・林研海幕命により和蘭の医学研究に留学(医師最初の西洋留学)		ブローカ Paul Broca (1824～1880)『失語症』にて大脳皮質の言語中枢発見(フランス)	南北戦争おこる(～65アメリカ)	1861
1863 (文久3)	幕府西洋医学所を医学所と改称し、漢方の医学館と同格になる 幕府審書調所を開成所と改称(洋学の教育研究の機関とす) 開成所規則制定(教授課目を語学(蘭・仏・独・露)天文・地理・窮理・数学・物理・化学・器械・画学・活動の諸科と定む)	江馬春令一江馬桂『療治口訣拾遺』の病属上腔の項に、健忘、癲癩等について記載あり 不破宮代の里、山本秀詮が鉄塔山天上寺で癲狂者の治療を始める。山本救護所となり、昭和25年廃止	レイI. Ray「精神衛生」刊。アメリカではじめて精神病予防のためのプログラムを示したもの ダックス Gustav Dax言語中枢は脳左半球に局在することを示す カールバウム Kahlbaum『精神病の分類 Gruppierung der Psychischen Krankheiten』を著わし、緊張病に注目する	リンカーン、奴隷廃止を宣言 ブロン・セカール脊髄半側損傷の麻痺症状を発表(フランス) ライデン、脊髄劣の病変を脊髄後索にありとす(ドイツ)	1862 1863
1864 (元治1)	江戸の医学所を病院に合し医学学校兼病院と改称す	『内科秘録』本間棗軒(そうけん)(1804～1871)著。その巻五に、癲癩、不寝狂(風狂、心風、癲狂、心疾)心気病(心疾心恙)の叙述あり	ロンブローゾ Cesare Lombroso(1836～1909)『天才と狂気 Genio e Follia』刊	第1回インターナショナル(国際労働者協会)結成 デュナン Henri Dunantにより赤十字同盟なる(スイス)	1864
1865 (慶応1)	幕府長崎養成所を精得館と改名し、ボードインついでマンスフェルトを招く。明治元年長崎医学学校と再改称(長崎医科大学の前身)		英ガルトン、優生学を提唱 ハノーバー市に「精薄児教育促進協会(Gesellschaft zur Forderung der Schwach-und Blodsinnigen-bildung)」が組織さる(ドイツ)	クロード、ベルナル『実験的学序説』刊 北軍、リッチモンドを陥し、南北戦争終わる リンカーン暗殺、ジョンソン継ぐ(在任～69)	1865

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1865 (慶応1)			ケルン(Kern)とテツツナー(Slötzner)の提唱によって「全国教育会議」に「治療教育部会」(Herlpädagogische Sektion)を設置(ドイツ)		1865
1866 (慶応2)		福沢諭吉『西洋事情初篇』でヨーロッパの啞院・盲院・痴院紹介	<p>コノリー John Conolly 歿(1794～1866) 英国精神科医。無拘束開放療法を提唱</p> <p>ベテルにテンカン施設開設→障害者の町に発展(ドイツ)</p> <p>セガン『白痴及びその生理学的方法による処理』(アメリカ)</p> <p>パルシャップ Panchappe 歿(1800～) 精神病者を可治,不治と分けることに反対「狂院のナポレオン」といわれる</p>	<p>ヒス・マイクローム発明</p> <p>英国ラングトン・ダウン, モンゴリズム発表</p>	1866
1867 (慶応3)			<p>ベアード Beard, 神経衰弱 Neurastheniaの語を初めて使う(アメリカ)</p> <p>独国・ドレスデンに精神薄弱者等の異常児の補助学級設置</p>	<p>石炭酸殺菌法を公表(イギリス)</p> <p>巴里にて第1回万国医学会開催される</p> <p>リステルが石炭酸殺菌法を公表(イギリス)</p>	1867
1868 (明治1)	<p>明治維新, 新政府は幕府の医学施設を接収し大病院を下谷に開く。</p> <p>横浜軍陣病院を吸収</p> <p>西洋医学免許の「西洋医術の儀, これまで止め置かれ候へど爾今其の所長に於て御採用これあるべく仰出され候事」と布告あった</p> <p>大政官は京都にて御親兵病院(6月軍務官病院と改称)を開設し官軍の傷病者を治療す(創傷の消毒に過マンガン酸水を使用す)</p> <p>政府は医学所を海陸軍病院とす</p> <p>横浜病院エゼーウィルキン設立</p>	<p>奈良林一徳養子元春, 小松川狂疾治療所継承</p> <p>区立函館病院癲癩病室(北海道函館市)設立. 昭和18年, 市立函館病院柏木分院に改名</p> <p>東京本郷(田町)に加藤癲癩病院設立(正式に許可された最初の私立精神病院)</p> <p>京都浄土村に療癲院(癲病院)新設</p> <p>狂疾治療所(奈良林)は改築して40名を収容し得るに至る</p> <p>東京警視庁布達</p> <p>精神病者等に対する法規で「癲癩人看護及不良子弟を教戒のため云々」とあり, これは後に監護法と感化法</p>	<p>クリージンガー歿(1817～1868)</p> <p>英国のジャクソン Huhlings Jackson(1834～1911)皮質癲癩を記載</p> <p>サンダー, 偏熱病を報告す</p>		1868

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1868 (明治1)	<p>新政府、横吉原町に日本最初の駆徴病院設置(後の吉原病院)</p> <p>横浜に傷病兵収容仮軍事病院(院長ウィリス)開設</p> <p>錦小車頼言(丹波家の正統)太政官に京都に病院設置のことを上申し官許を得て烏丸一条施薬院三雲宗順邸に病院開設</p> <p>新政府阿片煙禁止、種痘所を医学所に置く</p> <p>長崎の精得館を長崎医学校と改称し長与専齋を学頭とす</p> <p>東京大学医学部付属第二病院(神田和泉町に別科生の臨床研究のために)新設</p> <p>文部省、東京大学に学位(法・文・理・医製薬の学士)授与権を与う</p>	の基礎となった			1868
1869 (明治2)	<p>医学の範をドイツにとる方針決まる</p> <p>医学校並に病院を大学東校と改む</p> <p>特志解剖第1号</p> <p>昌平学校教授試補長野卓之充から無用の閑文字、暇末の章句の訓註など経済上有益でない書物を焼くべしとの建議が出た</p> <p>新政府、昌平学校に開成学校と医学校とを合せ大学とし、大学に高等教育と教育行政を管掌させる</p> <p>医学校より学術研究のため屍体解剖の特別志願あるときはその許可</p>		<p>慈善組織化協会(Charity Organization Society)[COS]設立、障害者の教育と福祉について活発な活動(イギリス)</p> <p>リーブライヒ、抱水クロラルを催眠剤に使用</p>	<p>アルジュール、ロバートリン、瞳孔対光反応強直発見</p> <p>ランゲルハンス、膵臓ランゲルハンス島細胞発見</p>	1869

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1869 (明治2)	あることを政府に乞うて許可さる(医学校における屍体解剖許可の始め) 大学校を大学と開成学校を大学南校と医学所を大学東校と改称 鹿児島浄光寺に医学校開設 この年、相良和安、岩佐純等日本将来の為には英国医学を排し、独国医学に則る要を提唱したが、パークス(英国公使)ウィリス等の反対で政府に容れられなかった。ところが大学南校教頭に來任した米国人フルベッキが相良・岩佐の説に賛成したので、政府もドイツ医学採用し、以後ドイツの医学者が大学病院に雇入れられることとなった この年佐藤進、ドイツへ私費留学(医師のドイツ留学の始め。1875年帰国) 文部省救療と医師伝習のため浪華仮病院(大阪上本町、大福寺)設立(翌3年、大阪府に移管、鈴木町代官屋敷跡に移転)				1869
1870 (明治3)	海軍病院創設(兵部省所管)(東京芝高輪旧水口藩邸) 政府、大学東校に引取人がない囚人の屍体を解剖することを許可 医学教師はドイツ人とし、医学の海外留学生	「新律綱領」(刑法にあたる)公布、(癡癲人の殺人罪は1人のときは終身鎖銅の上、埋葬金として被害者の遺族に25両支払う。2人以上の殺害したる癡癲人は絞首刑。癡癲を仮りて人を殺傷したるは謀殺殺傷によって刑を科す。とある	フリッチェ Gustav Theodor Fritsch ヒッチヒ Julius Eduard Hitzig 脳皮質の運動中枢発見 初等教育法制定。落第生問題顕在化：就学免際をうたう(イギリス) 公立救恤白痴、痴愚院創設(イギリス)	普仏戦争(1870~1871) フランス敗戦、帝政廃止、共和国となる	1870

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1870 (明治3)	もドイツに遺すこととなる 新潟に共立病院開設 (後方一区協定病院と改称)明治9年県立病院。12年新潟大学と改称す。現在の新潟大学医学部の前身となる) アメリカ人、フルベッキのすすめにより相良知安、岩佐純等ドイツ医学移入に決す 金沢藩は医学館を創設す(今の金沢大学医学部の始め) 新政府、人胆、靈天蓋(頭蓋骨)・陰茎の密売禁止 種痘全国実施の太政官布告 岡山藩、医学館及大病院開設 12年県立に移管、岡山県医学校と改称(現在の岡山大学医学部の前身となる) 新約聖書の日本語版完	販売阿片煙律公布(販売首謀者は斬、喫煙者は徴1年)			1870
1871 (明治4)	熊本藩、医学所を設立す(熊本大学医学部の始め) 兵部省、軍医療設置(陸軍始めての医事制度)	京都永観堂(浄土宗・西山派禅林寺)住職・東山天華は府知事横村正直に上申し、京都府療病院(ドイツ人ヨンケル、レーマン医学を講ず)(洛東青蓮院通称栗田御殿)の療病院付属の癲狂院(愛宕郡第1区南禅寺)設置 山本和田県(和泉国)より浄光寺第12代本多義懂に狂癲治療科医業免状下付	シャルコー Charcot サルペトリエール病院癲癇病棟受持ちとなる。ここでヒステリーの研究が始まる	ドイツ帝国成立 英国ダーウィン、『人類の由来』発表	1871
1872 (明治5)	東京三宅坂軍療付属病院内に軍医療学舎を設く(翌6年10月軍医学校と改称。軍医学校の始め) 兵学、軍医の2寮、日	学制領布：〈廃人学校アルベシ〉と規定→'79教育令にて〈廃人学校〉の名称消える 東京府養育院設立			1872

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1872 (明治5)	<p>曜日制度を採用（明治7年、文部省も官立学校日曜日制度を採用す）</p> <p>フランス人ラクロット女史、横浜に慈仁堂設置（育児院の始め）</p> <p>フランスの修道者サン・マチルダ、横浜に孤児院と修道院を設く</p> <p>全国を8大学区、256中学区、5,376小学区とする学制発布（大学東校を第1大学区医学校、大阪医学校を第2大学区医学校（同年秋廃止）長崎医学校を第3大学医学校と改称）</p> <p>京都府療病院（栗田口青蓮院内）を開設（医科大学附属病院、保健所、自治体、保健衛生課の機能を併せもつ）し病院旗に赤十字旗を採用す（日本で赤十字旗使用の始め）</p> <p>仏国人ドクトル・アレキサンデル、東京銀座に歯科診療所を開く</p>	<p>渋沢栄一の營繕会議所は本郷加賀屋敷に救育所を設け貧民を収容す。これは東京市養育院の始めてあり、その中に癲狂室を造り精神病者を収容</p>			1872
1873 (明治6)	<p>公立大阪病院新設、医学教授の教授局付設（東区安土町、明治13年中之島常安寺町に移転）（大阪医科大学の前身となる）</p> <p>順天堂医院（東京本郷湯島）開設</p> <p>文部省、医務課を医務局に昇格</p> <p>愛知県病院及医学講習所（名古屋門前町西本願寺別院内）に開設、10年、天王崎に移転、医学校と改称す。（名古屋</p>	<p>梓巫女（あずさみこ）市子、憑祈禱、狐下し、口寄など禁止</p> <p>改定律令、明治3三の「新律綱領」の修理増補公布「7月1日施行」（瘋癲殺人傷人条令）（瘋癲者の殺人は追徴金40円を徴し死者の家に埋葬金として給す。祖父母、父母2人以上の殺人は終身鎖鎖）</p> <p>奈良林元春、(天保9～明治40)（1838～1907）狂疾治療所の業務継承</p>	<p>ヘッケル Ewald Hecker (1843～1909)破瓜病を記述</p>		1873

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1973 (明治6)	<p>屋大学医学部の前身である)</p> <p>太政官, 文部省に医制取調を命ず</p> <p>医業の分科届出実施 (開業医師に学歴及専門科名を届出せしむ) (科名, 内・外・眼・座・口中科があった)</p> <p>第1大学区医学校に製薬学科を設く (日本の製薬学教育の始め)</p> <p>文部省医務課が医務局となる</p> <p>ホフマン (Theodor Hoffman) 第1大学に医学校の教師として来る (日本最初のドイツ教師)</p> <p>東京芝三田の慶応義塾に医学所設置, 英語にて教授 (明治16 (1883) 年8月23日廃止)</p> <p>坪井信長, 日本最初の医事雑誌創刊</p>				1873
1874 (明治7)	<p>明治5年8月以来の第一大学医学校を東京医学校と改称</p> <p>東京, 日本橋馬喰町に牛痘種継所設置 (痘苗保在)</p> <p>文部省, 医制 (長与専齊医務局長立案) 制定 (一般衛生, 医学教育, 医師及薬舗開業試験規定) 日本の衛生行政の始まり</p> <p>文部省, 京都, 大阪両府にて死亡表式 (死亡者届による統計) を始む (衛生統計の始め)</p> <p>太政官達, 双子, 三つ子の序列を前産児兄,</p>	<p>東京府病院 (芝愛宕下) 設立 (顧問佐藤尚中・院長岩佐純・副院長佐々木東洋・医員中井常次郎 (後の東京府癲狂院長) 等あり, 東京に精神病院設立の要を主唱す</p> <p>文部省, 東京, 京都, 大阪の3府に医制 (76条) を達す. (第25条に病院建設の規定がある. 第26条に癲毒院, 癲狂院等各種病院設立の方法は皆前条に則る)</p> <p>東京府, 仮癲狂院 (上野公園, 養育院の移転跡) 設置</p> <p>癲狂院の設立に関する規定</p> <p>東京衛戍病院に精神科病室設置</p>	<p>第1回白痴療育協議会開催 (以後3年毎) (ドイツ)</p> <p>ウエルニッケ Karl Wernicke 感覚性失語症を記載</p> <p>カール・バウム Karl Ludwig Kahlbau (1828~1899) 緊張病を記載</p>	<p>クスマウエル, 糖尿病性昏腫を記載</p>	1874

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1874 (明治7)	<p>姉と定む 金沢の医学館県立に移 行し現在金沢大学病院 の開基となる 千葉町に共立病院新設 (千葉大学医学部の発 端となる) 京都府日本最初の医術 開業試験規程を定む 内務省, 東京衛生試験 所新設 第一大学区医学校を東 京医学校と改称す</p>	<p>東京, 京都, 大阪に医制を施行す 恤救規則制定: <廢疾, 不具> 条項 (→1929救護法) 極貧の独身者にて廢疾に罹り産業を 営む能はざるものには一年米一石八 斗の積を以て給与すべし, 但独身に あらずと雖も余の家人70年以上15年 以下にてその身廢疾に罹り窮通のも のは本文に準じ給与すべし. 貧窮な 精神病者にもこれを準用すとある</p>			1874
1875 (明治8)	<p>文部省, 東京, 京都, 大阪3府へ布達. 医術 開業試験の実施を通達 東京医学校, 修業3年, 国語で講義する医学速 修の別課新設 府県に貧民の疫疫にか かる者に医薬を給せし む 衛生事務文部省より内 務省に移管, 衛生局と なる 病院規則公布 内務省, 始めて3府の 医師に伝染病届出をな さしむ 海軍省, 高木兼寛を英 国に留学せしむ. この 留学が日本の海軍成医 会学校(後の慈恵会医 学校)を英国式育とし た 東京医学会社設立(医 政と医学との研究会) (長与英之助, 石黒忠 直, 三宅秀等で設立) 小幡英之助, 横浜の米 国歯科医に就いて研究 し歯科専門の医術開業 試験合格者東京築地に</p>	<p>京都府洛東南禪寺に京都癲狂院を設 け京都府療病院の所轄とす.(日本最 初の公立精神病院)(院長真島利民) 京都府, 岩倉村の宿屋(6軒あった) に精神病者の宿泊禁止 警視庁は浅草に警視医学校を新設 (明治11年廃止)デーニッツ裁判医学 (精神病学を含む)を講義す 東京警視庁は浅草第5病院にてデー ニッツに裁判医学と共に精神医学の 講義をさす</p>	<p>トレヴェリアン, COS理事会で, 訓練学校(軽度精薄の職業訓練)とア サイラム(永久的保護施設)の二つを つくことを提案. はじめて「精薄 (feeble-minded)」ということばを用 いる(イギリス) この頃, 州立精薄児学校7校となり, その性格に変化(特別な訓練のため の学校というより治療不可能者のた めの保護収容所となる)をきたしは じめる(アメリカ) Richard Caton 『脳の電流 The Electric Current of the Brain』発 表(Brit Med. J) .</p>	<p>ウェスト・フアール, 脊髄疫に膝蓋腱反射消 失を発見 ロンブロー, 生来性 犯人説を主張する</p>	1875

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1875 (明治8)	開業 産婆規則発布 東京訓盲院創設(日本最初の盲学校. 皇室の下賜金で創立) 明治8年頃, 古川太四郎, 熊谷伝兵衛の両人が京都に啞院を設立した. 日本最初の啞学校である.(明治11年京都府営とし, 盲学校を併設して京都府盲啞院と称す) 衛生行政は文部省より内務省に移る				1875
1876 (明治9)	内務省達, 管内医師学術の現状により緩急をはかり医師開業試験施す(試験科目省略) 長谷川保, 米国齒科医イーストレーキに8年間師事, 帰国後齒科開業 天然痘予防規則公布 内務省, 各府県に検徴(梅)実施を布達 東京医学校と東京開成学校と昌平学校とを合せ東京大学とす 長谷川泰, 小石川春日町に済生学舎創設(35年まで800人の医学生を養成す) 東京府病院(芝愛宕下)産婆養成所設置(卒業者に産婆免状授与) 東京府, 産婆試験開始 ドイツ医師ベルツ(Baelz) 来日東京医学校教師となる 医術開業試験実施さる	長谷川泰, 東京府癲狂院長となり精神病院設立の要を説く 東京女子師範学校付属幼稚園設立 狂疾治療所(東京府小松川)癲狂院と改称(院長奈良林元春) 『精神病約説3巻』神戸文哉著(京都癲狂院監事)(モーズレー書の訳) モーズレーの分類 鬱憂症・癲狂・癪狂・德行狂・失神・痴呆・全身麻痺の7種	アメリカ白痴・精薄者施設医療職員協会(現状のアメリカ精薄協会A.A.M.Dの前身)結成, セガン初代会長(アメリカ) マックス・ベール, 『監獄衛生』刊 ロンブロンゾ『犯罪人 Luomo delinquente』刊. 生来性犯罪者説	ベル電話機を発明 コッホ(Koch) バクテリアを病原と実証	1876
1877 (明治10)	西南の役(西郷隆盛の		すべての学習可能な白痴に訓練を受		1877

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1877 (明治10)	<p>叛乱)起る。この役に熊本医学校病院全焼(11年4月新築再興)9月24日鹿兒島陥落。西郷隆盛等自刃</p> <p>変死者の死因不明のときは検事の許可によって屍体解剖可能となる</p> <p>明治7年5月以来の東京医学校を東京大学医学部と改称</p> <p>元老院議員佐野常民(1823～1903)等博愛社を設立して西南役の宮賦兩軍の傷病者を治療す(日本の赤十字事業の始め)</p> <p>東京府貧民患者救療のため各医に区医を配置,施療券無料,種痘券発行</p> <p>東京大学医学部外来診察(午前9時～12時)開始</p> <p>明治9年1月12日,内務省達で官立医学校卒業証書を得た者以外は総て医術開業試験合格者たることとなったが,内務省警視病院及旧警視庁医員などは無試験にて医術開業を許可</p> <p>薬店・売薬店にて医師免状なき者の診療を禁止(非医師診療の禁止の初め)</p> <p>コレラ流行の東京神田に下水道建設</p>		<p>けさせる法律制定(カナダ)</p> <p>COS「白痴痴患及び危険でない精神異常者の教育と養護に関する小委員会の報告書」(イギリス)</p> <p>ダクティル(R. L. Dugdale)「デューク家」の劣等な特質の遺伝性に関する家系調査研究(アメリカ)</p> <p>ヴィルプール(H. B. Wilbur)精神欠陥の分類や命名の必要性を指摘する公式論文を提示(アメリカ)</p> <p>ウェスト・フアール Westphal 強迫神経症を報告</p>	<p>エジソン,蓄音器を發明</p>	1877
1878 (明治11)	<p>京都府立盲啞院設立(日本公立盲啞学校の始め)</p> <p>東京府,医師の薬商兼業禁止,医師の投薬は</p>	<p>参議兼開拓使長官黒田清隆(1840～1900)酒乱にて妻斬殺の疑にて川路大警視,死体発掘検視</p> <p>京都癲狂病院長真島利民辞職,京都</p>		<p>コッホが破傷風菌を発見</p>	1878

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1878 (明治11)	従前通り自由 漢方医等、博濟病院、 (京橋本挽町に)設立	療病院長永井澄兼任 宮内省東京府に脚氣病院、癲狂病院 設立費として2万3千円下賜 名古屋監獄に日本最初の監獄の精神 病室設置 宮内省下賜の脚氣病院、癲狂病院設 立(神田神保町)(漢洋二方を置く)			1878
1879 (明治12)	高松凌雲ら貧民救済の ため上野鷺溪医院内に 同愛社設立(同愛病院 の始め) 大阪英語学校を大阪専 門学校と改称し、理・ 医の2科を置く 東京大学医学部の設備 漸く整備せるにつき祝 賀式を行う 明治天皇臨幸勅語あり	渡辺道純(天保9～明治23)北豊島郡 金杉村(後の下谷区根岸町51)に私立 癲狂院開設。明治23年松村清吾が継 承、根岸病院となり、火災後府中市 に移転現在の根岸国立病院となる 東京府仮癲狂院が宮内省の下賜金に よって創立され養育院に居った精神 病患者50名を収容す(松沢の前身) 日本に第2の公立精神病院 内務省達、府県衛生課事務条項第5 「窮民救療の事」に「公私立病院及び 貧院、盲院、聾啞院、癲狂院、棄兒 院等の設立を掌ること」がある 狂疾治療所小松川癲狂院と改称 東京大学内科教師ベルツの講義のう ちに精神病学も講述した 愛知医学校の教師アルベルト・フォ ン・ローレッツ、生徒開業医・警察 官に訴訟医学講義・精神病院の必要 を具に建議。『病体部観示要』三宅秀 (精神病の記事がある) 『断訟医学』(デーニッツ議義書)湯村、 三浦、斎藤共訳 金沢市の小野慈善院は若干の精神病 者を収容	エルバフェルドにドイツ最初の公立 補助学校(Hilf-schule)創設(ドイツ) ヴント W. Wundt ライプチヒ大学に 世界最初の心理学実験室を作る(ド イツ) 米国ベアード、神経衰弱症(ノイラ ステニーの名を用う)	スウェーデン国、ハン ゼン、癲菌発見 ナイセルが淋菌発見 (ドイツ) エジソン、炭素電球を 発明 ベルリンで電車開通	1879

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1880 (明治13)	横須賀海軍病院開設 ドイツ人の医学教師2名雇入れの約定成立 (日本到着後は侍医たること。日本の医師はドイツの上位とならぬこと。文部卿の次の位たること。学校教育の全権が与えられること 岡山県立病院付属医学教場を分離して岡山県医学校とす	教育令公布。「就学義務」を明確化 東京府、癲狂院看護人心得制定 東京府仮癲狂院は130名収容に増築し自費患者30名入院し得ることになる。尚男女の区別なき棟もある。又今迄国費であったものが此年から地方税で支弁することとなる 愛知病院(名古屋)純西洋式精神病室落成(ローレツツの設計)(名古屋大学医学部付属病院の前身) 刑法発令((1月1日施行。罪刑法主義で身分による刑罰相違廃止、第78条に『罪を犯す時知覚精神の喪失により是非を弁別せざるものは其の罪を論ぜず』との不論罪などの規定などがある) 愛知医学校に精神病舎が設けられた	精神病院アフターケア協会(Society for the Aftercare of the Insane)設立(イギリス) 慈善救済協会成立(ドイツ)	パスツールがワクチン免疫に成功 ラヴラン、マラリア病者の血液中に原虫を発見(フランス) エーベルトとガフキーが腸チフス菌を発見す(ドイツ)	1880
1881 (明治14)	高木兼寛(かねひろ) (1849~1920)松山棟庵(1839~1919)等成医会を組織(5月成医会講習所を設く)(慈恵会医科大学の前身) 出版物検閲本制(新聞、雑誌は発行ごとに2部づつ内務省警保局に納本し検閲を受けること) 高等中学校医学部(千葉・仙台・岡山・金沢・長崎)独立して医学専門学校となる 後藤新平(当時愛知医学校教諭)治療にあたる 明治生命保険株式会社	上野の仮癲狂院は本郷区東片町1番地に移り、東京府癲狂院と改む。(患者の増加と文部省からの土地返還要求のため) 中井常次郎専任院長となる 男女の病棟を区別す。定員150名 自費患者1日30銭1厘4毛なり 敷地 30264坪3合3勺3寸 建坪 682坪5合 工費 35555円20銭6厘 三宅秀『病理各論』著 東京大学は通牒を発し、学術研究のため文学部哲学生両3名の時々東京府癲狂院を参観視察することを申込み承諾さる	ターベル G. G. Tabel. は普通児との統計的比較研究から精薄児の身体的精神的劣等性を示唆(アメリカ) アメリカ最初の農園コロニーがマ州ドーヴァーとメットフィールドに開設(→'83 マサチューセッツ精薄学校となる) 最初の児童労働禁止法(スウェーデン) ムンク、大脳皮質の知覚、感覚、視覚中枢の部位を発見 ティ、家族性失明白痴記載(イギリス)	パスツール、狂犬病の予防法を発見	1881

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1881 (明治14)	(日本最初の生命保険会社) 創立 統計院設置				
1882 (明治15)	軍人勅諭を發布 内務省達, 神官の葬儀 関係禁止 (但し明治17 年より府県社以下の神 官は葬儀に関係するも 差支えなくなる) 不正行為ある医師は中央衛 生会審議会にはかつて 医業の停止又は禁止す るとの制度きまる 東京専門学校 (早稲田 大学の前身) 大隈重信 (1838~1923) 小野梓 (あづさ1852~1866) 等 により設立 文部省, 高等女学校創 設 (明治32年2月高等 女学校発布)	榊俣(1857~1897)精神病学研究の3 年間の独国留学に出発(3月) 京都府癲狂院廃止. 医師李家隆彦(天 保7~明治44年)(1837~1911) 継承 し, 永観堂北方に移転し, 私立京都 癲狂院と改称(後の川越病院)京都府 立病院廃止後, 岩倉村の精神病患者宿 泊の旅館業復活 上野癲癪人は直ちに東京府巢鴨病院 へ護送の上, その理由を該患者の発 見地の区役所又は戸長役場へ通知す べき旨の東京府令出る 本多栄(堺医学校卒)大阪府泉南郡熊 取村七山浄見寺内に精神病院本多病 院開設 ベルツ Edwin Baelz 東京大学医学 部で精神病学講義を開始.(1年1学 期1週1時間, 臨床講義はなかった) 明治9年から35年まで大学教師であ った 東京癲狂院医員で患者死亡の時病体 局所解剖を心願するものは親族と熟 談の上, 解剖してよい. また費用は 医員一同自費を以てすべきことを許 可された 『医語類編』戸塚卷蔵著 池上雪枝, 大阪市に「神道祈禱所」を はじめ, 不良児を収容 (最初の感化 院)	フライアー Wilhelm Thierry Pr- yer(1841~1897)『児童の精神』Die seele des Kindes 児童心理学の最 初の基礎的な概論書(ドイツ)	コッホが結核菌を発見 (ドイツ)	1882年
1883 (明治16)			クレペリン Emil Kraepelin (1855 ~1926)『精神病学教科書 Lehrbuch der Psychiatrie』初版刊.近代精神 病学を確立 ゴールトン Francis Galton (1822 ~1911)『人間能力の研究 Inquiries into Hunlan Faculty』刊行 (イギリ ス) シュトゥンプ Carl Stumpf (1848 ~1936)『音響心理 Tonpsychologie』 2巻刊行始める. 1890年完了	ダイムラー, 自動車を 発明 クレプスとレフレルが ジフテリア菌を発見 (ドイツ)	1883
1884 (明治17)		岩倉癲狂院開設 (岩倉村のコロニー	トインビー・ホールおよびフェビア	コッホ, コレラ菌発見	1884

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1884 (明治17)		の後身。現在の京都市左京区岩倉。宿屋業者(精神病者保護所)四軒が合同して建設したもの (明治25年岩倉精神病院, 明治35年岩倉病院と改称したが, 第2次世界戦争末廃院。また昭和27年再開現存) 警視府布達乙第12号認可のない患者を私立癲狂院に入院させること禁止 相馬誠胤, 加藤癲癲病院に入院(3月) 相馬事件はじまる	ン協会発足(イギリス) ハーヴァード医学校で, はじめて精薄に関する臨床講義が設けられる ベルネーム Bernheim 暗示療法を行なう	(ドイツ) ニコライエル, 破傷風菌発見 クノール「アンチピリン」を発見 フレンケル, 肺炎菌発見(ドイツ) コルレル, 「コカイン局所麻醉法考案」	1884
1885 (明治18)	専売特許条令公布	内村鑑三, アメリカのフィラデルフィア近郊エルウィン村の白痴院(州立訓練学校 traing school) に看護人として働く(12月から7ヵ月) 教育令改正「就学猶予」を明示 東京大学内科講師ベルツ官報第469, 470号に『狐憑病論』(文部省報告書) 発表。狐憑きに関する最初の研究 石丸癲狂院(大阪府豊能郡熊野田村) 改称石丸精神病院となる		パスツールが狂犬病の予防に成功(フランス) イーストマン(米)写真フィルム製造を完成	1885
1886 (明治19)	勅令・内務省官制出る各省官制改正 内務省は7局となりその1局に衛生局(衛生・医務の2課)を置く 帝国大学令公布, 明治10年4月以来の東京大学医学部(第1次)を帝国大学医科大学と改称 三宅秀大学長となる 小学校令(義務教育制の始め) 中学校令公布(尋常と高等との二等級) 師範学校令公布(尋常・高等との二等級) 商船学校, 高等師範学	東京府養育院, 入院規則を定め, 白痴者等収容対象を明示 小学校令: 疾病, 家計困窮等による「就学猶予」を規定 東京府癲狂院に入院の子爵相馬誠胤(元相馬藩主)を錦織剛清が夜中に病院に侵入し連れ出した。相馬事件は明治27年まで訴訟が続いた日本で最も有名な精神病患者関係の訟訴事件である 私立回春病院附属癲狂院(大阪市南区逢坂上の町・敷地700坪)山本洪輔(1832~1899)開設	白痴法(Idiots Act) 制定(イギリス)		1886

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1886 (明治19)	校官制公布 蓄音器の初輸入 陸奥宗光(むつむねみつ・1844~1897)がアメリカ土産に持ち帰ったのが初めて、明治34~35年ころまでは夜店で料理をとってきかせた	三上天民、木瓜原癲狂院(京都市上京区元継木瓜原町)設立 東京府癲狂院小石川区駕籠町に移転(総経費、14986円57銭2厘) (内訳、10522円57銭5厘、宮内省下賜金、2726円51銭1厘、官内省に用地売却金)建設 自費患者 1等1日75銭 2等1日35銭 榊俣欧州留学より帰国 陸軍一等軍医江口襄、陸軍省より裁判医学及精神学研究に独国留学をを命ぜられる 榊俣、教授となり東京大学医学部精神病学教室開設 日本人による初めての精神医学講義 『精神病学』江口襄著(シュウレの著訳)江口精神病学の病名:欠損の症、変質の症、抑うつ症、興奮の症、懦弱の症、5種21病名あり 江口襄(軍医)ドイツに留学			1886
1887 (明治20)	鹿鳴館で首相主催の仮装舞踏会開く 明治天皇親監あって東京慈恵会医院開院式(共立病院改組)	東京府、帝国大学の申入れにより、東京府癲狂院の医務を大学に委任し、その代り公費患者を臨床講義に供する約定ができ、榊教授は東京府癲狂院の院長を兼務した。これから東京大学精神病学教室は昭和8年まで同病院内にあった 帝国大学は精神病学を科目に加う。東京府癲狂院患者を臨床講義に供することを定む 癲狂院を小松川精神病院と改称(院長奈良林浅次郎)	ワイクセルバウムが脳脊髄膜炎菌発見(ドイツ) ウィルマース Wilmarth 蒙古症の解剖学的特徴を発見(アメリカ) ヴ ホール Granville Stanley Hall (1844~1924)(ジョンス・ホプキンス大学教授)『American Journal of Psychology』創刊		1887
1888 (明治21)	財団法人矯正会設立	第一高等中学校医学部(千葉医学校)、	フェレ C. Féré 皮膚電気抵抗の変		1888

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1888 (明治21)	<p>東京大学医学部の教授等東京医学会を結成し三月より「東京医学雑誌」発行</p> <p>東京婦人矯風会、一夫一婦制と海外の日本婦人の売娼取締とを元老院に建議す</p> <p>神奈川県海水浴場に男女区を設け男女混浴禁止</p> <p>沖縄県で子供の虫封じのまじないに小便を飲用することを禁止</p> <p>皇居を宮城と称すると宮内省公示</p> <p>日本最初の電気鉄道小田原電気鉄道開業</p> <p>鈴木雅子、本郷森川町に東京看護婦会を設立(派出看護婦会の始め)</p>	<p>三木恒男精神病学を講義</p> <p>第五高等中学校医学部(長崎医学校)4月より大谷周庵が精神病学講義</p> <p>第三高等中学校教授清野勇、大阪医学校校長兼病院長となり、大西鍛精神科医長となる</p> <p>帝国大学文科大学哲学科に精神物理学(実験心理学の始めの名称)講座開設(担任教授元良勇次郎(1859~1912))</p> <p>片山国嘉婦朝し法医学を講義</p> <p>大阪医学校、大西鍛、愛知医学校、川原汎各精神病学を講義。(1学期1週2時間)</p>	<p>化現象を発表『Note sur des modifications de la résistance électrique sous l'influence des excitation sensorielles et des emotions』</p>		1888
1889 (明治22)	<p>明治憲法公布</p> <p>薬品営業並に薬品取扱規則公布</p> <p>「医師は自ら診察する患者に限り自宅に於て薬剤を調合して患者に授与するを許す」ことになる</p> <p>北里紫三郎が破傷風菌の純培養に成功、翌年血清療法完成</p>	<p>佐賀県柄崎病院精神病科に東大精神病学教室出の医学博士、三田久泰(明治26年歿)が赴任。(地方病院の最初の医学博士、精神科医長)</p> <p>東京府癲狂院を東京府巢鴨病院と改称し、榊俣が院長となる</p> <p>私立大阪癲狂院、私立大阪精神病院と改称</p> <p>従来寺院に精神病者を収容した大阪の浄見寺爽神堂を七山病院(大阪府泉南部熊取村大字七山)と改組</p>	<p>児童虐待防止法制定(イギリス)</p> <p>ジャネー、『心理学的自動症 L'automatisme psychologique』刊</p>	<p>パリにエッフェル塔完成(フランス)</p>	1889

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1889 (明治22)		<p>帝国大学医科大学, 国家医学講習科設置 (官立医学校卒業生, 開業医等に公衆衛生学, 法医学精神病学, 医制を講義)</p> <p>根岸病院(東京)警視庁より患者の袋筒張り作業の中止を命ぜられ, 始末書をとられる</p> <p>呉秀三『脳髓生理精神啓微』刊 呉秀三『医学統計論』刊 後藤新平『国家衛生原理』刊</p>			1889
1890 (明治23)	<p>教育勅語発布 第一回帝国議会 慶応義塾大学(文・法律・理財の三科)始業式 京都の琵琶湖疎水(インクライン)開通 高等中学校医学部に薬学科を付設</p>	<p>元良勇次郎, 東京帝国大学文科大学精神物理学教授となる. 日本で最初の心理学担当の教授</p> <p>松本尋常小学校「落第生学級」設ける(→1894閉級)</p> <p>「女学雑誌」に神経衰弱多しとの記事掲載(運動不十分・過度の緊張・就眠時の遅刻を原因にあぐ)</p> <p>岩倉癲狂院はその後も旅宿業者と紛争続くも, 明治20年頃, 患者の放火により一民家全焼(患者本人も焼死)したため預る民家少なくなる. それで合資会社となり開院式を行う</p>	<p>精神異常法(Lauacy Act)制定(イギリス)</p> <p>ジェームズ William James『心理学原理 Principles of Psychlogy』2巻刊行</p> <p>タルヒアノフ J. Tarchanoff, GSR 現象を報告</p> <p>カンディンスキ Viktor Khrisanfovich Kandinsky『仮性幻覚について』発表</p>	<p>コッホがツベルクリンを創製し世界を驚かす</p>	1890
1891 (明治24)	<p>北里柴三郎破傷風血清療法発見 大阪病院看護婦取締鈴木雅子退職し, 東京神田に日本最初の看護婦会を設立 ニコライ堂(東京市神田)開堂式 第一回医術開業試験施行</p>	<p>東京府巣鴨病院医員舟岡英之助精神病患者看護講義始む</p> <p>石井亮一, 白痴教育施設設立<東京滝野川> わが国初の精神薄弱児収容施設で, 石井亮一は此年の濃美大地震により孤女を収容し保護したが, その中の精薄者は普通教育に不可と知り創設したという</p> <p>陸軍軍医学校, 精神病学を裁判医学</p>	<p>社会復帰のための里親制度(Colonies familiales)を開始する(フランス)</p> <p>デルブリュック A. Delbrück 空想虚言症報告</p>		1891

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1891 (明治24)	佐伯理一郎、日本最初の産院設置 成瀬仁蔵(1858~1919)日本女子大学創設 滋賀県巡査津田三蔵、大津で露国皇太子ニコラス二世傷害 成医学校、東京慈恵会医学校と改称 文部省、三島通良(みつしまつねよし、1866~1925)に学校衛生事項調査を嘱託(文部省の学校衛生取調の始め)	に属させる。江口襄が担任 東京大学精神病学教室助手、島村俊一、狐憑病調査のため島根県に出張 第2 高等中学校医学部(仙台)精神病学講義開始。(小児科担任の内田守一教授) 舟岡癲狂院(京都府愛宕郡大宮村)開設。(開設者医師旭恭齊・池田正之助) 小松川癲狂院、小松川精神病院と改称、奈良林元春の子医師浅次郎相統 千葉医学学校精神病室を完成し大西克孝が担任 長野市は精薄者のため促進学級を開いた			1891
1892 (明治25)	小児科学研究会 ('95「小児科」発刊、日本最初の小児科雑誌)、元旦が辰年辰の日にあたるので、辰の刻(午前八時)に13歳の女兒に竜の字を書かせると防火のまじないとするとの迷信流行 白木屋(東京)強制的に電話敷設(当局からの勧誘を断っていたが遂に敷設(人目のつかぬ所を選んで敷設) 漢方医学を医術開業免許規則に入れる建議案衆議院に提出、特別委員に付託される ロジェー・バチュラー(聖公会宣教師)アイス病院設立 教育勅語の謄本を全国学校に配布を始む	医師阪本元良、私立大阪癲狂院(大阪市北区本庄葉村町)設立 榊俣、司法省より東京地方裁判所嘱託 岩倉癲狂院、岩倉精神病院(京都府)と改称 呉秀三、石川島監獄の囚人の文調査 呉秀三『精神病者の書態』刊 呉秀三『不眠の療法』刊(近世医学叢書) 加藤癲癲病院長加藤照業は北豊島区高田村に15,000坪の土地を求め1,500人収容の大精神病院を計画したが果せず 呉秀三は福岡県にて三十余回に亘る放火犯永吉力松の精神鑑定をなす	マイネルト Theoder Meynert 歿(1833~1892) ウィーン大学教授、精神病を血管運動性障害に帰する説	フォラニカが肺結核の人工気胸術を創始(イタリヤ) エジソン活動写真発明	1892

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1892 (明治25)	(12月25日、直轄学校には天皇親署の勅語下付) 精工舎時計製造始む				
1893 (明治26)	日本への活動写真の初輸入	舟岡癲狂院を船岡精神病院と改称、院長広瀬胖 呉秀三、船岡英之助、間城監獄の囚人の人類学的研究を行なう 京橋挽町厚生館にて「相馬疑獄譚、星亨を攻撃する」8月26日には浅草須賀町鷗友館にて相馬家騒動、星亨を論ずとの演説があり、麴町では寄席で相馬事件の演説がましいことをなさぬようとの論告が出た。大阪でも角座でこの演説会があった 相馬誠胤謀殺の被告人相馬順胤、同家家扶志賀直通等26人免訴、11月16日被告人綿織剛清を支持した内務省衛生局長後藤新平、東京府巣鴨病院長中井常次郎、検事局に拘引 帝国大学法科大学にては学生に随意科として精神病学を聴講させる 国家医学会監獄医学講習料開催（井村忠介精神病学担任） 相馬事件解決す	シャルコー Jean Martin Charcot 歿(1825～1893) ジャネ 『ヒステリー者の精神状態 L'état mental des hysteriques』刊	ディーゼル機関発明(ドイツ)	1893
1894 (明治27)	日清戦争はじまる 活動写真機フィルムの初輸入 北里柴三郎とエルザン(フランス)がそれぞれ別個にペスト菌を発見 御木本幸吉直円直球の養殖に成功	大阪府立医学校、精神病学教室設置 相馬事件の最終判決宣告(綿織剛清、誣告罪懲役4年罰金40円、内務省衛生局長後藤新平、無罪) 東京府は東京府巣鴨病院の医務職員(帝大教授助教助手、副手など)に囑託辞令を発行し責任を明かにす 永井精神病院(新潟県中蒲郡須田村)	グラチエーバ、ペテルブルグに重症精薄児のための特殊養育院開設(ロシア)	エルザン、ペスト菌を発見(フランス)	1894

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1894 (明治27)		<p>鶴の森開設(従来あった施設を病院に改組し永井慈現開設者兼院長)</p> <p>京都府亀岡で大本教の信徒会開かる (大本教は出口なおが明治25年1月頃失神状態に陥り予言、御筆作成に始まる)</p> <p>警視庁は精神病患者取扱心得を發布す 1. 私立病院に精神病患者を入院せしめんが警察署に届出ある時は署は警察医を派遣し患者の所在につき詳細に調査したる上認可書を下付し 2. 入院を許可したる後も時々病院を臨検して其取扱方を視察するを要し 3. 警察署及分署は毎月3日までに前月中の入院患者を第2部に報告す、等々</p>			1894
1895 (明治28)	第8議会で漢方存続案否定		<p>リポーとビネー『L'année Psychologique』誌創刊(フランス)</p> <p>フロイトとプロイヤー、『ヒステリー研究 Studien über Hysterie』刊行 精神分析を提唱</p> <p>ルボン Le Bon『群集の心理学』刊行</p> <p>全国精薄者養護協会(National Association for the Care of the Feeble-minded)→'96 全国精薄者福祉促進協会(National Association for Promoting the Welfare of the Feeble-minded)(イギリス)</p> <p>ニューヨーク州病院病理学研究所(後に精神医学研究所になる)設立(アメリカ)</p>	レントゲン、X線発見	1895
1896 (明治29)	日本郵船ヨーロッパ航路開始	長野市尋常小学校に促進学級「晩熟生学級」特設	議会に欠陥児・癲癇児委員会を設置→'98「同委員会報告書」→'99 初等教育(欠陥・癲癇児)法制定(イギリス)	ノーベル歿(1833～) 近代オリンピック第1回大会(アテネ)	1896

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1896 (明治29)		呉秀三帝国大学助教授 (精神病学担任となる)	英国児童学会創立(イギリス) ベルグソン『物質と記憶』刊 リポー『Revue Psychologique』創刊 クレペリンその教科書第5版に Dementia praecox, Katatonieおよび Dementia paranoidesの病名を採用	マルコーニ(イタリア) 無線電信に成功	1896
1897 (明治30)	豊田佐吉自動織機を完成 伝染病予防法 京都帝国大学新設につき、明治19年以来の帝国大学医科大学を東京帝国大学医科大学と改称 志賀潔赤痢菌発見	榊俣(東大教授精神病学担任。(39歳3月)病歿。法医学担任教授片山国嘉、同年8月5日より同34年10月まで精神病学講座兼任 帝国大学助教授呉秀三は精神病学講座担任を命ぜられ、3月、東京府立巢鴨病院長心得嘱託 文部省、呉秀三に精神病学研究のため独・墺二国に留学を命ず(8月8日発航) 東大教授片山国嘉(法医学担任)東京府巢鴨病院医長兼職 舟岡病院(京都)作業療法に乳牛15頭を飼育し、その牛乳を開業医に販売した収益によって、精神病者を施療入院せしめた 呉秀三『精神病学要略』刊	精神衛生事業始まる(フィンランド) モンテッソリ、精神欠陥児に関し、「医学的問題というよりはむしろ主として教育的問題である」と結論(イタリア) デュルケム Emile Durkheim (フランスの社会学者)『自殺論 Le suicide』刊行 解剖学者カハールの脳神経系の大著出版始まる(スペイン) エリス H. H. Ellis『性倒錯 Sexual Inversion』刊	マルコーニ無線電信会社を設立(ロンドン) ブラウン、陰極線管(ブラウン管)発明(ドイツ)	1897
1898 (明治31)			ドイツ補助学校連合会(Verband der Hilfsschulen Deutschland)発足 ラングレー、自律神経を記載 パヴロフ、犬に小胃を作って胃機能を検査	キューリー夫妻ラジウム発見(フランス)	1898
1899 (明治32)	中学・実業・高等女学校法公布	政府精神病患者監護法案衆議院通過、貴族院にて否決	ツールーズ Edouard Toulouse 開放病棟の設立を提唱(フランス)		1899

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1899 (明治32)			少年審判所開設(アメリカ)		1899
1900 (明治33)	治安警察法公布 小学校令改正 高峰讓吉, 米国にてア ドレナリン結晶体発見	精神病患者監獄法公布(6月28日, 内務省令, 精神病患者監護法施行規則, 6月29日, 勅令精神病患者監護第6条, 第8条第3項による監護の件発令. 何れも7月1日より施行) (感化法公布)白痴の就学免除を規定 町立根室病院附属精神病室(北海道根室市)設立. 昭和32年, 市立根室病院精神科となる 熊本病院(熊本医学校と関連が ^あ った)にて精神神経科を独立の科とし, 12月より三角恂教諭が ^あ 科長となったが ^あ , 精神病室はなかつた 内務省令第35号精神病患者監護法施行規則公布 勅令第282号精神病患者監護法第6条, 第8条第3項に関する件公布(7月1日施行) 武田癲狂院は, 武田精神病院と組織を改む(広島県佐伯郡宮内村字針田160番地, 許可定員15, 設立者兼院長武田敬恵医) 石丸癲狂院を石丸病院と改称	カールバウム歿(1828~1899) パブロフ Van Pavlov 条件反射学説(ロシア) ウェルニッケ Carl Wernicke(1848~1905)『精神医学要綱』初版 フロイト『夢解釈 Traumdeutung』刊 ベルグソン『笑』刊	プランク, 量子論確立 ツェッペリン軟式飛行船完成 メンデル, 遺伝法則の再発見	1900
1901 (明治34)	自動車初めて輸入	済生学舎に精神科を置く. 東京大学精神病学教室助手井村忠介学説講義す 神戸精神病院(兵庫県武庫郡夢野村北堀内)新設(医師水谷牛次郎医師, 齋藤直三郎等設立) 王子脳病院創立. 小峰善次郎が ^あ 東京	ドクロリー Docroly 精薄児に関する特殊教育研究所を開設(ベルギー) ウォルフ, トリオナール持続睡眠法創始. ババンスキ Babinski, ヒステリーの状態にピチアティスム pithiatisme の語を提唱	ノーベル賞はじまる レントゲンエックス線の発見者受賞	1901

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1901 (明治34)		<p>府北豊島郡滝ノ川西ヶ原に開院。昭和20年廃止</p> <p>独・奥・仏に留学中の呉秀三帰国</p> <p>呉秀三、東京帝国大学医科大学教授となる。東京府巣鴨病院長を兼務</p> <p>東京脳病院設立(北豊島郡西巣鴨町) 神戸脳病院設立(武庫郡夢野村)いずれも昭和20年廃止</p> <p>呉秀三、強制具使用を禁止し監置室使用を制限す</p> <p>神経学年報創刊</p> <p>東京府巣鴨病院門脇真枝, 北林貞道, 清水耕一看護長, 看護講習会開講(毎日午前1時間宛8ヶ月)</p> <p>榊保三郎『癲狂院における精神病看護学』著</p>	<p>マイネルト Th. Meynert 「アメンチア amentia」の語を創始</p>		1901
1902 (明治35)		<p>日本神経学会(日本精神神経学会の前身)創立(神経学雑誌創刊)呉秀三, 三浦謹之助等精神, 神経, 心理学の学者50名賛同す. 第1回総会(日本連合医学会神経病学および精神病学部開設)</p> <p>青山脳病院(赤坂区南町5丁目81番地)院主兼院長ドクトル, 斉藤紀一)開設. 昭和20年廃止</p> <p>精神病患者慈善救済会成立(呉秀三首唱, 東京大学医学部教授及び開業医の夫人が³発起)</p> <p>精神病患者慈善救済会資金獲得のため上野公園東京音楽学校にて慈善音楽会開催</p> <p>幼年者飲酒禁止法案議会提出</p>	<p>クラフト・エビング Richard Krafft-Ebing 歿(1840~1902)オーストリアの精神科医. ウィーン大学教授, 異常性欲, 犯罪心理の研究</p>	<p>ベイリスとスターリングが³セクレチンを発見(イギリス)</p>	1902

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1902 (明治35)		<p>門脇真枝『精神病看護学』『狐憑病新論』『精神病学』</p> <p>京都大学に精神病学講座開設</p> <p>児童研究会設立</p> <p>区立室蘭精神病院(北海道室蘭市)設立。昭和36年、市立室蘭総合病院祝津分院となる</p> <p>日本神経学会機関誌として『神経学雑誌』発刊。当初隔月刊であったが37年より月刊となる</p>			1902
1903 (明治36)	小学校国定教科書制公布	<p>精神病患者慈善救済会、慈善園遊会(東京府巣鴨病院)以後時々園遊会を開催し資金の収入を図る</p> <p>東京府巣鴨病院にて始めて寝台を新設病室に設備</p> <p>今村新吉、欧州留学より帰国、京都帝国大学教授(精神病学担任)となる</p> <p>森田正馬、東京慈恵会医学専門学校精神病学担当の教授となり、毎週2時間精神病学講義をし、臨床講義は巣鴨病院にて行なう。呉秀三隔週1回2時間東京府巣鴨病院で臨床講義を行なう</p> <p>巣鴨病院は背に巢の字の染出しがあった花色木綿製病衣を縦縞木綿とし、背標を廃した</p> <p>須磨精神病院(武庫郡須磨村)設立。昭和20年廃止</p> <p>バルビタール、催眠剤創製</p> <p>呉秀三『精神病鑑定例』刊行始める(第2</p>	セリュー Paul Sérriaux, フランスの精神病院システムの嚴重閉鎖的なのを批判改善を求める報告書を出す(フランス)	ライト兄弟、飛行機を完成	1903

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1903 (明治36)	日露戦争始まる 東京にデパート初登場	集, 3, 4集は39年～42年間に刊行された)	ヘラー T. Heller. 「治療教育原論」 (Grundriss der Heilpädagogik) (ド イツ)		1003
1904 (明治37)		精神病科談話会始まる (片山国嘉, 門脇真枝, 後藤省吾, 松村清吾, 奈 良林浅次郎発起)	ヒーリー W. Healy, シカゴ少年審 判所で不良少年の研究を開始 (アメ リカ)		1904
		東京に精神病科懇話会設立。(会長呉 秀三, 幹事三宅鉦一, 森田正馬)(大 正7年4月東京精神病学会と改称)	ニッスル, アルツハイマー進行麻痺 の解剖学的研究を発表		
		巣鴨病院は救済会より作業用具の寄 附を受け, 農作, 園芸, 牧畜その他 の作業が盛んになる	ツールーズ, ヴァシド, ピエロン, 職業選択テスト法		
		巣鴨監獄に精神病監落成 (井村忠介 は監獄医となる)			
		谷脳病院設立(高知県長岡郡)昭和7 年廃止			
1905 (明治38)	5月8日, 日本海海戦 9月5日日露講和条約 調印 (11月25日批准書 交換)(日露戦争の日本 の損害死者廃疾者11万 8千人, 艦船91隻, 軍 費15億2,321万円) 関釜連絡船始まる 日本基督教女子青年会 (YWCA)創立(会長 津田梅子)	精神病患者慈善救済会, 東京府巣鴨病 院にて患者慰安音楽会開催	ビネ Binet とシモン Simon 知能検 査法発表(フランス)	アインシュタイン, 「特 殊相対性理論発表 シャウデン及びホフ マンら, 梅毒スピロヘ ータ発見	1905
		青山脳病院(東京)脳病室新築(定員 250名)	マサチューセッツ病院(Massachuse- tts General Hospital)神経科にソー シャルワーカーが置かれた(アメリ カ)		
		東京巣鴨病院仮出院制度制定(1週 間以内の外泊)	ウエルニッケ Carl Wernicke 歿(18 48～1905)ドイツの精神科医		
			プリンス Morton Prince 『人格の解体』刊		
			ニューヨークのベルヴュー(Bellevue) 病院に精神科ソーシャル・ワーカー 置かれる(アメリカ)		
1906 (明治39)		精神科談話会(神田美土代町青年会 館)の精神病学普及医育と保護との 講演会開催(大隅重信, 衆議院議員 江原素六, 島田三郎, 山根正次, 法 学博士海原謙次郎, 東大教授呉秀三 講演)	アルツハイマー Alzheimer 初老期 痴呆の脳損傷を研究(Alzheimer 病)		1906
			ワッセルマン梅毒血清を考案(ドイツ)		
			マイヤー, Adolf Meyer (移住したス		

年 代	日本における一般事項	外国における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1906 (明治39)	東海道線3等急行車に 食堂車連結 東京、神戸間に最大急 行運転開始(所要時間 13時間47分) 小笠原、グアム島経由 の日米海底電線開通 豊田佐吉、改良自動織 器の特許を得 文部省第1回美術展覧 会を上野竹の台で開催 (その後毎年開催) 東京学士院を廃止し帝 国学士院を設置す	第22回帝国議会で衆議院議員山根正 次、江原素六提出の医学校に精神病 科設置に関する建議案提出。3月17 日、修正可決 政府は速かに催眠術取締法を制定す べしとの建議案衆議院にて採択とな る 九州大学医学部神経精神医学教室開 設(榊保三郎教授) 第2回日本医学会第11分科会で医 学校に精神病科設置に関する建議案可 決 精神病者救済会、大隅伯郎で慈善園 遊会開催 警視庁、警察医員制度改正。「精神病 診断所」を職務事項に加う 『新撰精神病学』石田昇著(クレペリ ンに準拠) 山根正次議員等の建議により医学校 に精神病科設置が可決された 呉秀三『病的心理学』(早稲田大学講 義集)著	イス精神科医) アメリカ精神病理学 を確立 プリンス Morton Prince ハーバー ド大学に臨床心理学研究所を作り 『Journal of Abnormal Psychology』 を創刊 ピアズ Clifford W. Beers (治癒患 者) 自伝『己れを見出した心 A mind that found itself』刊		1906
1907 (明治40)	癩子防法 小学校令改正(義務教 育を6ヶ年に延長) 豊田佐吉(1867~1930) 自動織機発明(日本の 他、英、米、白、印な どの特許を得る) 株式会社帝国ホテル開 業 明治40年起行。41年竣 工の三越百貨店東館は 鉄骨コンクリート建築 の始め	「医学校に精神病科設置に関する建 議案」可決 東京高師附属小学校に補助学級特設 楽石社(伊沢修二)に特殊教育研究部 (「低能児研究所」)規則できる 改正刊法公布(明治41年10月1日施 行)(第39条、心理喪失者の行為は之 を罰せず、心理弱者の行為は其の 刊を減軽す)	モーズレイ H. Maudsley ロンドン市 議会で3万ポンド寄附し、これをも とにしてモーズレイ病院が建設され る(1915)(イギリス) ボストンで訪問教師(Visiting Tea- cher) 運動開始(アメリカ) バージニア州で断種法制定(アメリ カ) ベフテレフ Vladimir M. Bekhterev (1857~1927)『精神反射学』刊	メンデレーエフ歿 ジェームズ『プラグマ チズム』著わす ルミエール、天然色写 真発明(フランス)	1907

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1907 (明治40)	<p>片山潜等社会主義同志会結成</p> <p>洋画家松山省三、カフェプランタン（京橋区日吉町）に仏語の看板をかけた開業。</p>	<p>東京帝国大学医科大学助手石田昇、長崎医学専門学校教授に就任。精神病学教室独立</p> <p>東京帝大助手松本高三郎、千葉医学専門学校教授となり、精神病学を担任</p> <p>岩倉病院焼失(京都)</p> <p>愛知医学専門学校で精神病学、内科より分離独立科目となる</p> <p>東京医学専門学校、精神病学講義開始(中村譲が43年まで担当)</p> <p>日本医学専門学校にて精神病学講義を開始。初代講師三宅鉦一(40～41)</p> <p>東京府巢鴨病院不潔室廃止</p>	<p>ノンネ E. Nonne とオッペンハイム H. Oppenheim らドイツ神経学会 Gesellschaft Deutscher Nervenärzte 設立</p>		1907
1908 (明治41)	<p>移民制限に関する日米協定</p> <p>始めて長野県女子教員の妊娠規定制定（産前産後2ヶ月の有給休暇）</p> <p>御木元幸吉（1858～1954）真珠養殖の特許を得る</p> <p>日本児童研究会第1回会合（元良勇次郎、富士川游、三宅鉦一等発起）</p> <p>地学博士池田早苗発明の調味料「味の素」の製法専売特許獲得</p> <p>第1回ブラジル移民文部省、東京音楽学校のオペラ上演計画を風俗上害ありとて中止を命ず</p> <p>高峰讓吉、タカジマス</p>	<p>九州医学校の教授学生自弁で上京、巢鴨病院で臨床講義を受ける</p> <p>中央慈善協会設立</p> <p>愛知県立医学校精神病学教室設置（北林真道教授となる）</p> <p>昨40年9月全焼の岩倉病院合資会社（代表者岩倉村村長柏村辰三）、院長土屋栄吉で復興</p> <p>文部省発布の医学専門学校令の教授科目に精神病学が入る</p> <p>現行刑法発令</p> <p>感化法改正され各府県に公立感化院を設置することを規定。ない県は私立を代用することを認める</p>	<p>ピアズ、民間の精神衛生運動組織 National Association for Mental Health を創設</p> <p>コネチカット州精神衛生協会(Connecticut Society for Mental Hygiene)を組織</p> <p>ニューヨーク、ベルビュー病院に児童クリニック(Child Guidance Clinic)開設(以上アメリカ)</p>	<p>人造糸スフを發明（ドイツ）</p>	1908

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における一般衛生事項	外国における一般事項	年 代
1908 (明治41)	ターゼ創製	呉秀三『精神病学講演速記』著 森田正馬『根岸病院看護法』(私立精神病院から最初の看護学書)著 呉秀三『精神病検診録』『精神病診察法』(臨床医学叢書)著			1908
1909 (明治42)	衆議員根本正建議の未成年禁酒法案衆議院で可決(後に貴族院で否決) 大日本ビール会社、生ビール発売 癲癪養所多摩全生病院(東京府北多摩郡南秋津)落成式挙行(後、全生園と改称) 京都洛南寺に真言宗の慈善病院創設(日本最初の仏教病院) 韓国統監伊藤博文、ハルビンで暗殺 売淫制度調査会設立(会長伯爵芳川顕正)	片山・呉ら、中央衛生会に「各府県に精神病院を設置すべき旨」の建議 熊本医学専門学校精神病学学説講義開始 金沢医学専門学校に精神病学教室新設(従来は内科担任教授、山崎幹之助が精神病学の講義をしたが、欧米留学から帰国した松原三郎が教授となり、講義と外来診察を始めた。しかし教室も病室も他科からの借用) 明治37年創立の精神病科談話会、会員組織と改正、事務所は東大精神病学教室 呉秀三、東大法医学教室で精神の生理及び病理に関する公開講義開始 京都府教育会白痴教育の白川学園(京都府愛宕郡田中村百万遍山内)設立(園長脇田良吉) 岩倉病院(京都)附属看護婦学校設置(最初の私立精神病附属看護婦学校) 内務省は道府県に管内精神病室がある公私立病院より中央衛生会の決議によって、作製した調査表の事項を精神病者退院ごとに記入し、地方庁に提出させ、地方庁より内閣統計局に送付することを訓令 福岡県医師会、新潟県医師会より帝国議会で精神病院建設の要を建議 関西精神病学会、京都医科大学で開催	ビアズ、アメリカ精神衛生委員会を組織(アメリカ) ヒーリー、シカゴに Juvenile Psychopathic Institute (現在の Illinois Institute for Juvenile Research) 設立(アメリカ) 精薄児の特殊学級・学校任意設置法制定(フランス)	ペークライトを作成 リケッツがロッキー山 紅斑病の病原体を発見(アメリカ) ブロードマン、細菌構築学を確立	1909

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1910 (明治43)	<p>韓国併合 徳川好敏初飛行成功 (東京代々木練兵場) 立憲国民党成立 秦佐八郎, ドイツにて エールリヒと協同し サルバルサンを發明す 御船千鶴子, 千里眼 (透視)評判となり, 東 京帝大の医, 文, 理科 の博士9人の立会実験 を行なう 日野熊蔵大尉始めて飛 行機で飛行成功(高度 1メートル, 距離60メ ートル) 白瀬陸軍中尉の南極探 険隊出發 私立東京, 日本の2医 学校合併, 日本医学校 となり, 明治45年より 日本医学専門学校と改 称 越後国高田師団に軍事 研究のために在日中の オーストリー国陸軍中 佐テオドル・フォン・ レルヒが始めてスキー 術を伝授 上野池の端に木造5階 建の上野クラブ建設(ア パートの始め)</p>	<p>精神病者の公費収容, 委託監置始ま る 呉秀三, 片山国嘉・栗本庸勝三, 精 神病院設立に関する建議案を内務大 臣に提出 内務省より精神病者救治会へ貧困精 神病者収容所建設を条件として助成 金, 千円下付 内務省衛生局長は地方長官會議にお いて, 府県立病院に精神病者収容施 設の設置を勧奨 中央衛生会, 呉秀三, 片山国嘉, 栗 本庸勝を委員にあげ全国に官公立精 神病院設立の要否の調査を依頼 東京府内の監獄医務所長會議(巢鴨 監獄)開催(監獄内の精神病監, 結 核病監の設備, 衛生を協議)</p>	<p>この頃, 終身収容のコロニー・プラ ン盛ん(アメリカ) ジェームズ William James 歿(18 42~1910) アメリカの心理学者・哲 学者</p>	<p>エールリヒと秦佐八郎 が共同で梅毒の化学療 法薬サルバルサン発見 ハレー彗星出現</p>	1910
1911 (明治44)	<p>野口英世米国ロックフ ェラー研究所にて梅毒 スピロヘータの純粋培 養に成功 鈴木梅太郎が米糖から オリザニンを抽出, 創 製しビタミン研究のい とぐちを開く 中央線全通祝賀式(名 古屋) 平塚雷鳥(明子・1886</p>	<p>第27帝国議会在衆議院議員山根正次 は官立精神病院設置建議案を提出, 3月16日本會議に上提, 山根議員の 提案理由説明後松田源治議員の發議 にて9名の委員に附託, 委員八木逸 郎の發議にて「官公立病院設置に関 する建議案」と改称可決. 3月21日 の本會議にて可決 内務省, 警察巡閲規則を地方長官に 達す(精神病者監護に関することが</p>	<p>ブロイラー E. Bleuler『早発性痴呆 または精神分裂病群 Dementia Pr- aecoخoder Gruppe der Schizoph- nenie』刊行 Schizophrenie の語初めて使われる ジャクソン John Huhlings Jackson 歿(1835~1911)英国神経科医, てん かんの研究, ジャクソニズムを主唱 ヘルパッハ Willy Hellpach(1877~</p>	<p>アムンゼン南極到達</p>	1911

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1911 (明治44)	<p>～1971) 青踏社結成 徳川大尉, 所沢川越間 飛行成功 築地精養軒経営カフエ ー・ライオン (銀座尾 張町角) 開店 ついて銀座鍋町にカフ ェー, パウリスター開 業, 以後カフエー流行 陸軍中尉, 白瀬南極探 検隊南緯85度5分に到 達 (45年6月20日帰国)</p>	<p>入った</p> <p>内務省衛生局長, 地方長官に通牒し て警察巡閲規則の巡閲事項に精神病 に関することを加う</p> <p>7～8月, 東大精神病学教室私宅監 置の状況の实地調査. 齊藤玉男 (山 梨)・氏家信 (長野)・水津信治 (静 岡)・木村男也 (埼玉)</p> <p>福岡医科大学, 精神病学教室落成</p> <p>朝鮮総督府は孤児教育・盲啞教育・ 精神病患者救療のため京城に済生院を 設置, 地方には分院・派出所開設</p> <p>朝鮮総督府医院内, 普通病棟内に10 床の精神病床設けらる</p>	<p>1955)『風土心理学 Geopsychologie』 刊</p> <p>ダントン Dunton 作業療法を定義 (アメリカ)</p> <p>エリス H. H. Ellis 『夢の世界』刊</p>	<p>清国に辛亥革命発す</p>	1911
1912 (明治45) } (大正1)	<p>全国的にコレラ大流行 私立東京女子医学校専 門学校令による医学専 門学校となる 仙台医学専門学校を廃 し東北帝国大学医学専 門部を設く 丸の内に日本で2番目 の鉄筋コンクリート建 物竣工 (日本最初の鉄 筋コンクリート建物は 東京倉庫株式会社の中 戸倉庫) 4, 5月頃, 空気タイヤ の人力車登場 日本民俗学会発会 (石 橋臥波, 高木敏雄等発 起) メチルアルコール取締 規則公布 明治天皇崩御, 大正天 皇即位, 大正と改元 9月13日青山練兵所に て大葬, この夜陸軍大</p>	<p>石川貞吉『神経衰弱及其療法』著 中村讓『神経質と其療法』著 池田隆徳『身体病に起る精神病及其療 法』著 榊保三郎『変り者』著</p> <p>王子脳病院 (東京)看護学講習実施 (期間1ヶ年, 实地講習1箇年後の 試験合格者に免状授典)</p>	<p>スザード E. E. Southerd 精神医学 的ソーシャルワーカーの訓練を實際 化 (アメリカ)</p> <p>ゴッダード「カリカク家の研究」(ア メリカ)</p> <p>ボネファー Karl Bonhoeffer (1868 ～1948)「外因反応型」説 クラパレード Edouard Claparède, (1873～1940)ルソー研究所を設立. 児童心理学と実験教育学を研究 (ス イス)</p>	<p>孫文臨時大統領就任 中華民国成立 清朝滅亡 (シナ)</p>	1912

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代	
1912 (大正1)	将乃木希典夫妻殉死				1913	
1913 (大正2)	野口英世が変性梅毒患者の組織中に梅毒スピロヘータを発見(日本, アメリカ) 御木本幸吉の真珠素質被着法特許	大日本学校衛生協会結成 台湾聯合医学会台北で開催. 精神病室を総督府医院に設置されたことの総督府への建議案可決 釧路市立病院附属精神病監置室(北海道釧路市)設立. 昭和28年, 市立釧路総合病院精神科となる 第18師団(長崎県太村)衛戍病院・精神病室落成 野口英世進行性麻痺性痴呆患者の脳脊髄液の脊髄中にスピロヘータパリーダ発見 朝鮮総督府医院精神科設置 東京第1衛戍病院精神病室落成 呉秀三『我国における精神病に関する最近の施設』(東京医学会創立25年祝賀論文第2輯)	精神薄弱法(The Mental Deficiency Acts)(イギリス) ヤスパース K. Jaspers 『精神病理学概論 Allgemeine Psychopathologie』初版 ワットソン J. B. Watson 行動主義心理学を提唱 ジャネット M. C. Janett ボストンで精神医学的ソーシャルワークを始める(アメリカ)			
1914 (大正3)	第一次世界大戦勃発(大正3年8月23日対独宣戦. 大正7年11月独逸無条件降伏)	宮内省より精神病患者慈善救済治会に昭憲皇太后の御大葬の便殿一部下賜	シモンズ Simmons 大学社会事業部で精神医学的ソーシャル・ワーカーの専門的養成を開始(アメリカ)	第一次世界大戦始まる 孫文, 中華革命党結成 パナマ運河(大西洋岸のコロンと大西洋岸のバルボアとの連絡運河)開通		1914
1915 (大正4)	山極勝三郎と市川厚一が人工瘻の発生に成功 稲田竜吉と井戸泰がワイル氏病レプトスピラを発見	戸山脳病院事件 杉江董『ヒステリーの研究と其療法』著	キャノン Walter Cannon 『苦痛, 飢餓, 恐怖, 憤怒の各状態における体内の変化, Bodily Changes in Pain, Hunger, Fear and Rages』刊 エビンガー Hans Eppinger ワゴトニー現象発表	アインシュタイン「一般性相対性原理」を発表(ドイツ)		1915
1916 (大正5)	保健衛生調査会設置	東北大学医学部精神病学教室開設	ターマン Lewis Madison Terman (1877~1956)ビネー・シモン知能検		1916	

年 代	日本における一般事項	外本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1916 (大正 5)			査法を改訂(アメリカ) リポー Théodule Ribot 歿 (1839～1916) フランスの心理学者		1916
1917 (大正 6)	本多光太郎、高木弘、 永久磁石鋼KS鋼発明	第4回全国救済事業大会で「精神病 院の施設を善及せしむる手段如何」 について協議 久保良英等「児童研究所」設立 国立感化院法公布 文学士中村翁(古峽)日本精神医学会 創立 雑誌『変態心理』月刊(日本精神医学 会) 古くから信仰読経により治療してい た正中山法華経寺(下総中山)中山療 養院となる。昭和23年中山病院とな り現存	ワグナー・ヤウレグ Wagner-Jaure- gg 梅毒進行麻痺のマラリヤ療法考 案(オーストリア) クレペリン, 精神医学研究所 Kaiser- Wilhelm Institut を設立, 第2次大 戦後は Max Planck 研究所となる (ドイツ) 国民協会を作る(フィンランド) ボストンに Judge Baker Guidance Center 設立 リッチモンド M. Richmond 「社会診 断」刊行(アメリカ)		1917
1918 (大正 7)		マラリヤ療法初めて行われる。	クレッチュマー 『敏感性関係妄想 Der Sensitive Beziehungswahn』刊 グリユック B. Gluck , ニューヨーク 州 Westcearter (に近代的児童クリ ニック開設(アメリカ) ウッドワース R. S. Woodworth 『動 的心理学 Dynamic Psychology』刊 行 モーズレー H. Mausley 歿 (1835～ 1918) 英国の精神科医		1918
1919 (大正 8)	日独講和成立 結核予防法 トラホーム予防法公布 (昭和39年第5回改正) 明治30年6月以来の東 京帝国大学医科大学を	精神病院法公布 松沢病院完成 大阪市立児童相談所設立(公立児童 相談所の最初)	ピアズ, 国際精神衛生委員会を作る ゲゼル Gesell 就学前児の為の検査 法を規定(アメリカ) ダンディ Dandy 脳室撮影法(気	「禁酒法」アメリカ連邦 議会通過 在米国野口英世が黄熱 病の病原体発見	1919

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1919 (大正 8)	東京帝国大学医学部と改称 大日本紡績株式会社、 8時間労働実施 (8時間労働制の始め)	東京市が低能児教育として、促進学級・補助学級設置の方針を打ち出す 東京帝大医学部精神病学教室、小石川駕籠町東京府巢鴨病院内から本郷帝大構内の旧看護婦寄宿舍を改造した木造一階の建物に移転 内務省衛生局代用精神病院基準を示し各地方長官に私立精神病院の代用精神病院としての適否を調査 勅令によって精神病院法の一部施行期日の件公布 勅令精神病院法による代用精神病院の国庫補助及入院費の徴収方法公布 林道倫、東京市下谷区上野桜木町に林脳研究所設立 東京府立松沢病院（荏原郡松沢村）（東京府巢鴨病院移転）開院式 米国留学中ドクトル・ウォルフを射殺した長崎医学専門学校教授（精神病学）石田昇は送還され東京府立松沢病院に収容 大阪市役所児童相談所を開く	脳写)を考案(アメリカ) ウォルフ、精神病の持続睡眠法（トリオナル連続投与）を始む ベルネーム Hippolyte-Marie Bernheim 歿(1840～1919) ジャネ Pierre Janet 『心理学的治療 médicaments psychologiques』刊		1919
1920 (大正 9)	第1回メーデー（上野公園）5,000人参加 東大森戸辰男筆禍事件 慶応・早稲田、大学令により大学設立認可。 ついでこの年中に6大学設立認可 尼港（ニコライエフスク）事件起る シベリア出兵 アントワープに第8回国際オリンピック大会が行われ日本の金谷・	大阪市立児童相談所内に通学制低能児学級（定員30人）を設置 精神病者慈善救済会。根岸病院にて患者慰安会。保養院（6月8日）。東京府立松沢病院（7月11日）。王子脳病院（10月30日）にても同様慰安会 第5回社会事業大会、児童保護法制定を要望 文部省令「学校医職務規定」：精神薄弱者の鑑別養護	精神衛生連盟(La Liegue d'Hygiène et de Prophylaxie mentale) 設立(フランス) スペイン国王アルフォンゾ13世カハール Ramony Cajal (1852～1935) のためにカハール研究所を建てる。神経系の組織学の基本となる発見多数 ヴェント Wilhem Wundt 歿(1832～1920) ドイツの心理学者。近代心理学の始祖	国際連盟発足。ジュネーヴで第1回総会開会ラジオ初放送（アメリカ）	1920

年 代	日本における一般事項	外国における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1920 (大正9)	熊谷・佐野の三選手出場 栄養研究所官制公布 第1回国勢調査, 全人口76,989,000人(内地5,600万・朝鮮1,700万台湾360万・樺太10万) 国際連盟, 赤道以北の南洋群島に対する日本の委任統治を正式に決定 カロリン・マーシャル・マリアナの旧独逸領, 日本の委任統治となる(第1回世界大戦の結果) 東京地下鉄道設立	府県に低能児学校設置を可決 日本精神病医協会設立(東京市神田医学士会館) 会長呉秀三, 目的は精神病に関する制度の研究, 精神病院の発達と精神病患者救済の改善を期すること, 精神病専門医師および目的にそつ医師で組織			1920
1921 (大正10)	メートル法採用 北海道帝国大学官制公布(医学部新設) 私立熊本医学専門学校を県に寄附し県立熊本医学専門学校と改称	公立精神病院設立についての建議 文部省, 低能児教育調査会設置 東京府代用児童研究所を滝乃川学園に委託開設 精神病患者慈善救済会, 精神病患者救済会と改称 第44回帝国議会で「癲狂院増設に関する建議案」との2案が衆議院に提出されたが, 次の如き1案となつて可決された. 建議 「我国に於ける精神病患者は逐年増加の傾向あり而してさきに精神病院法制定されたるに拘らず未だ各府県に之が設立を見ざるは, 誠に昭代の欠陥なりと云はざるべからず, 政府は速に万難を排して之が設置を命ぜられむことを聖む」 森田正馬『精神療法講義』(変態心理学議義録第三篇) 森田正馬『神経質及神衰弱の療法』著	ロールシャッハ Hermann Rorschach(1884~1922) 性格診断法発表 国際児童福祉協会発足(ベルギー) クレッチュマー『体格と性格 Körperbau und Character』刊 ケーラー, コフカ, ウェルトハイマーら『心理学研究 Psychologische Forschung』誌を創刊(ドイツ) ジャネー, 新ジャクソン主義を唱う 『スピールマイヤー』W. Spielmeier, 『神経病理学総論 Histopathologie des Nerven System』	婦人および児童の売買禁止に関する国際条約	1921

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1922 (大正11)	健康保険法公布1926年 7月1日施行 少年法、矯正院法 南洋諸島委任統治始まる 未成年者飲酒禁止法公布 官立医科大学官制公布 日本共産党非合法に結成さる 内務省社会局に保険課 新設	下田光造、ズルフォナルによる持 続睡眠療法発表 多摩少年院(東京)、浪速少年院(大 阪)設立 檜田五郎『我邦精神病に関する年表』 (明治元年～大正10年)	連邦財団により模範児童指導クリニ ック(Demonstration Child Guidan- ce)開設(アメリカ) セース県の精神予防センター(Centre de prophylaxie mentale)として、外 来専門のアンリ・ルーセル(Henri- Rousselle)病院創設(フランス) クレランボー G. de Clérambault 「精神自動症 l'automatisme menta- le」説	第1回全連邦ソヴェト 大会開会 バンティングとベスト がインスリンを発見(カ ナダ)	1922
1923 (大正12)	9月1日午前11時58分 関東大震災起る 全焼家屋 464,909戸 死者 91,344人 結核予防学会成立 丸の内ビルヂング竣工 大原孫三郎、労働科学 研究所(岡山県倉敷市) に設立。所長暉峻(て るおか) 義等 東京に多摩矯正院設置	精神病院法施行規則公布 丸井清泰、初めて精神分析に関する 講演。「パラノイアの精神分析」を 発表、フロイドの精神分析を導入した 少年審判所(東京・大阪)設置	シュナイダー Kurt Scheider『精神 病質人格 Psychorathische Persö- nlichkeifen』刊 フロイト『自我と超自我』刊 第1回国際児童保護会議、児童の権 利に関するジュネーブ宣言(スイス) ピック Pick, Pick病発表 ジュマ George Dumas(1866～1946) 『心理学論集 Traité de psycholo- gie』2巻刊(～24)		1923
1924 (大正13)	東京放送局設置 佐々木隆興、アミノ酸 創製 東京市、婦人職業紹介 所(小石川区水道橋)に 開設 内務省令、活動写真フ ィルム検閲規則公布 メートル法実施	県立病院精神科分院設立。昭和6年 県立鹿児島保健院となる(鹿児島) 松本高三郎教授(精神病学担当)千葉 医科大学長になる。精神科担当教授 始めての大学長 精神病者救治会、東京府立松沢病院 内臨時救護所(内務省助成金20,000 円。震災善後会交付金10,000円にて 建設)開設 青山脳病院(東京)失火全焼(患者19 名焼死)	オールポート Floyd H. Allport『社 会心理学』刊(アメリカ) ホール Granville Stanley Hall歿 (1844～1924)アメリカ心理学創始者 の一人 王立委員会報告「アフターケア中心 の社会学的治療を行なうこと」(イギ リス)	カルメット、ジェラン らB. C. G. 接種を提唱	1924
1925 (大正14)	普通選挙法案通過	森田正馬、森田療法発表		ハイゼンベルク、量子	1925

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1925 (大正14)	学校の軍事教練の実施を可決 3月22日、東京放送局仮放送開始（7月12日より本放送開始） 治安維持法公布（治安維持のためにする罰則に関する件廃止） 東京帝大に地震研究所附設 「婦人及児童の売買禁止に関する条約」を批准公布 普通選挙法公布	旭川精神病院設立、昭和20年より市立旭川病院精神科となる（北海道） 呉秀三、東大医学部教授停年退職 第24回日本神経学会総会（九州）で次の決議が可決 「吾人は精神病院法制定の主旨に鑑み道府県立精神病院を速かに全国に普及せしめ特種の処置を要する社会的危険なる精神病患者を收容するため国立精神病院を建設せられむことを切望す」		力学創始 ベアード、テレビジョン発明	1925
1926 (昭和元)	大正天皇崩御 昭和時代開始 同潤会東京向島に始めて公営鉄筋アパート完成	県立芹香院設立（神奈川） 府立中宮病院設立（大阪） 日本精神衛生協会発足 日本心理学会発足 内務大臣、第1回社会事業調査会に「社会事業体系に関する件」諮問→答申、異常児童に関する体系 第1回全国児童保護事業会議、低能児の保護、特殊教育令の制定を要望	クリューガー Felix Emil Krueger (1874~1948)『新心理学研究 Neue Psychologische Studia』発刊（ドイツ） クラークス Ludwig Klages (1872~1956)『性格学の基礎 Die Grundlagen der Character Kunde』刊 ベルガー Hans Berger (1873~1941) 人間の脳波発見 アメリカ精神医学ソーシャル・ワーカー協会(AAPSW)設立 クレペリン Emil Kraepelin 歿 (1856~1926) 精神分析パリ協会(Société Parisienne de Psychanalyse)設立（フランス）		1926
1927 (昭和2)	東京地下鉄（上野・浅草間）開通 国立療養所官制公布	月刊誌『脳』（後に『精神と科学』）発刊（日本精神衛生協会）	ミンコフスキ Eugène Minkowski, 『精神分裂病、分裂性性格者及び精神分裂病者の精神病理学』刊「現実との生きた接触の喪失」説	米国リンドバーク、(ニューヨーク、パリ間)大西洋無着陸飛行に成功	1927
1928 (昭和3)	最初の普通選挙行わる 高柳健次郎、テレビジョン実験	森田正馬『神経質の本態及療法』刊行 巣鴨脳病院を巣鴨病院と改称・院長	P. Bard「みかけの怒り sham rage」説	フレミング、ペニシリン発見し抗生物質の端緒を開く（イギリス）	1928

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1928 (昭和3)	丹羽保次郎, N・E式 写真電送方式発明 野口英世, 黄熱病のため 黄金海岸にて客死 (5.21) 今上天皇京都にて即位 大典執行	交送(多田頌男)(昭和18年11月多田 院長死亡. 青木義治就任) 11月9日(12月6日まで)日本赤十字 社精神衛生展覧会開催(日本最初の 精神衛生展覧会で日本精神衛生協会 の援助)	アメリカ精神衛生財団(American Foundation for Mental Hygiene)設 立(アメリカ)		1928
1929 (昭和4)	救護法公布 プロレタリア文学運動 盛んになる	「東京府立松沢病院の歴史及患者統 計」「東京帝国大学, 精神病学教室 の歴史」日本神経学会	ベルガー Hans Berger 脳波現象を 報告(『Über das electroencephalo gramm des Menschen』Arch. f. Psychiat Nerven Kht) キャノン W. B. Cannon 自律的機構 の恒常性(ホメオスターシス)理論を 発表(アメリカ) 地方自治法公布. 同時に精神障害者 のアフタ・ケアが規定さる(イギリス) ロンドン大学経済学部(London Sc hool of Economics)に精神衛生課程 設置, PSW 養成開始	ドイツのツェペエリン 伯, 飛行船の世界一周 に成功(8月21日日本 霞ヶ浦7時間着陸)	1929
1930 (昭和5)		第1回国際精神衛生会議(米国ワシ ントン), 呉秀三, 三宅鉦一, 植松七 九郎両教授出席 第2回全国児童保護事業会議, 異常 児童研究所, 教育所設置を要望 日本精神衛生協会正式成立. 雑誌「精 神衛生」発刊	第1回国際精神衛生会議(Internati onal Congress on Mental Hygiene) ワシントン市で開催 精神治療法(The Mental Treatment Acts), (イギリス) マクドウガル Wiliam McDougall 「ホルメ」説を発表 白亜館児童会議, 障害児の教育保護 について勧告(アメリカ)	ロンドン海軍軍縮会議	1930
1931 (昭和6)	三島徳七, 本多光太郎 MK磁石鋼発明 少年倶楽部に『のらく ろ二等兵』連載始まる	県立筑紫保養設立, 昭和41年より県 立太宰府病院となる(福岡) 第2回全国児童保護事業会議, 異常 児童研究所, 教育所設置を要望 青森市立精神病患者監置所設立, 昭和	ジュマ G. Dumas 『新心理学論集 Nouveau Traité de Psychologie』7 巻の刊行開始 障害児の就学義務制(ソ連) ヴィルダー Josepk Wilder 初期値	ピカール, 気球で成層 圏調査	1931

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1931 (昭和6)		26年より市立小浜診療所、昭和32年より市立小浜病院、昭和33年より青森市民病院小浜分院となる(青森) 内務省「全国救護事業協議会」、精神薄弱者鑑別及び保護の問題論じられる	の法則(Das Ausgangswert-Gesetz) 発表		1931
1932 (昭和7)	五・一五事件 満洲国承認 佐々木隆興と吉田富三が発癌物質を研究	第1回全国公立及び代用精神病院院主院長会議、内務大臣により招集 県立精神病院設立、昭和23年より県立城山病院となる(愛知) 精神薄弱児童研究会設置(文部省体育課主催精神薄弱児童養護施設講習会が母体) 第11回全国連合学級衛生会総会、学校に於ける精神薄弱児童の養護施設建議 日本医師会医政調査会総会特別委員会、内務大臣諮問「精神衛生施設拡充に関する方策如何」に対する答申：白痴院の増設、低能児の収容所、精神薄弱者取扱に関する法規制定 呉秀三歿(1865～1932) 市立札幌病院静療院設立(北海道)	ババンスキー Joseph Babinski 歿(1887～1932) フランスの神経科医 キャノン W. B. Cannon『人体の英智 The Wisdom of Body』刊行。(アメリカ) シュルツ Schultz「自己鍛練法 autogene Training」発表	ナチス第1党となる(ドイツ) コッククロフト、ウォントンら、原子核の人工転換	1932
1933 (昭和8)	国際連盟脱退 京大滝川事件 少年救護法公布	植松七九郎、ゴノワクチンによる発熱療法を行う 久保喜代二ら、インシュリン療法追試 児童虐待防止法公布 第2回全国育児事業大会、精神薄弱幼児のための国家施設を要望	ザーケル Manfred Sakel(1900～1957) 精神病のインシュリン・ショック療法発表(オーストリア)	ヒットラー、ドイツ国首相に就任	1933
1934 (昭和9)	湯川秀樹素粒子の新理論発表	日本神経学会、日本精神神経学会と改称。学会誌を「精神神経学雑誌」と	アルコホリックス・アノニマス(匿名断酒組織A. A.)生れる(アメリカ)	ナチスドイツ劣性人種法施行	1934

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1934 (昭和9)	大日本国防婦人会創立	改称 第3回全国児童保護事業会議，精神異常調査委員会設立，不具者教育令を要望 精神薄弱児保護協会設立		ルイセンコ，遺伝の新学説樹立 キューリー夫妻，人工放射能を発見	1934
1935 (昭和10)	美濃部達吉の天皇機関説議会で問題となる 北原五郎，五十嵐勇，超々ジュラルミン発明 米国ロックフェラー財団提供の資金による公衆衛生院附属の東京市衛生地区保健館（東京築地明石町）着工	夏以来嗜眠性脳炎流行．特に東京に多発 第8回全国社会事業大会に精神薄弱児童保護法制定を建議	マレイ H. Murray ら，絵画統覚法テスト(T. A. T.)発表(アメリカ) コフカ Koffka (1886～1941)『ゲシュタルト心理学の原理 Principles of Gestalt psychology』刊行 実験欠陥学研究所に障害児の実験心理学研究室開設→'44 研究所はロシア共和国教育科学アカデミア欠陥学研究所に改組(ソ連)	ドマークおよびトレフェル，ズルフォンアミド剤創製 化学療法大革新始まる ドマークがフロントジルを創製し，サルファ剤の先駆となる(ドイツ)	1935
1936 (昭和11)	ドイツ防共協定 方面委員会公布 二・二六事件 皇道派青年将校の反乱部隊1,400名で挙兵，内大臣斎藤実，大蔵大臣高橋是清，教育総監渡辺錠太郎等を殺害，27日反乱軍帰順 日本初のプロ野球行わる	東大医学部に脳研究室開設(室長三宅鉦一教授) その中に児童研究部開設 京橋保健館(現中央保健所)に「精神衛生相談部」設置 日本精神神経学会総会，精神神経学用語統一委員会設置 保育問題研究会結成 東京帝国大学医学部附属脳研究所開設式．医学部一号館三階講堂(堀越久三郎が三宅教授に報する謝恩からの寄付金20万円．5年賦で第1回寄附金のうち4万円を建築費にあて，精神病学教室の傍に建築したものである．初代所長は三宅鉦一) 東大教授三宅鉦一停年退職，後任内村祐之北海道帝国大学教授 市立小樽静和病院設立(北海道)	モニッツ Egas Moniz が精神病の前頭葉白質切断術(ロボトミー)を創始(ポルトガル) ノ・マウナ Von Meduna , カルジアンル静注による痙攣療法を発表(ハンガリー) パヴロフ Ivan Pavlov 歿(1849～1936) ロシアの生理学者 ブロイラー Eugen Bleuler 歿(1857～1935) スイスの精神科医		

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1936 (昭和11)		国立精神病院設置、低能等の精神異常者の特殊施設への收容保護に関して日本精神衛生協会公立および代用精神病院協会(三宅鉦一理事長)精神病患者救済会(内村祐之理事長)が「精神病対策確立に関する要望書」を内務大臣潮恵之輔に提出 東大精神病学教室精神医学教室と改称			1936
1937 (昭和12)	日中戦争開始 (蘆溝橋事件発端) 文化勲章令公布施行 保健所法公布 慶応義塾大学医学部内に北里記念図書館落成	カルジアゾール痙攣療法始む 県立病院光風寮設立(兵庫) 母子保護法公布 第8回全国社会事業大会継続第3委員会、精神薄弱児童保護法に関する最終案文を作成、提出 全日本司法保護事業大会、精神欠陥ある者の特別な制度施設の確立を建議 第5回全国私設社会事業大会、精神薄弱者保護法制定を決議 日本精神衛生協会(第1回研究会東大医学部南講堂) 林藹『パブロフ条件反射学』刊	第2回国際精神衛生会議(パリ) セーヌ・エ・マルヌ県に6つの都市診療所(デイスパンセール)創設(フランス) 第1回国際児童精神病学会議(フランス) アドラー Alfred Adler 歿(1870～1937) オーストリーの精神科医、精神分析家 オールポート Gordon W. Allport 『人格論 Personality—a psychological Interpretation』刊	クラウゼ、電子超顕微鏡発明、翌年ビールス撮影	1937
1938 (昭和13)	厚生省開設(1.11) 傷兵保護院(厚生省外局設置(4.18)) 12月傷病軍人療養所開設 公衆衛生局院制公布 庭野日敬・長沼妙俊等 霊友会より分かれ大日本俊成会開教 国民健康保健法施行 文部省科学振興会設置	電気痙攣療法始む 国府台衛戍病院に里見分院精神科病棟を設置。昭和20年より国立国府台病院となる(千葉) 社会事業法公布 厚生省社会局主催「精神薄弱者保護の問題に関する懇談会」 日本精神衛生協会主催「精神薄弱問題座談会」	セルレットイ・ビニが精神病の電気痙攣療法発表 ダンバー Dumber 『情動と身体の変化 Emotions and bodily changes』刊	カロザース、ナイロン発明	1938

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1938 (昭和13)		<p>愛育研究所に精神薄弱幼児の特別保育室付設される</p> <p>厚生省に優生課新設</p> <p>勅令厚生省官制（体力・衛生・予防・社会労働の五局，精神病に関する事項は予防局の所管）</p> <p>森田正馬歿（1874～1938）慈恵会医科大学名誉教授</p> <p>三井報公会寄附の愛育会研究所（東京麻布）開設</p>			1938
1939 (昭和14)	<p>国民徴用令実施ノモンハン事件</p> <p>桜田一郎ほか合成1号（ピニロン）開発に成功</p> <p>NHK技術研究所，有線によるテレビジョン実験放送公開</p> <p>厚生省に人口問題研究所設置</p> <p>軍事保護院発足（厚生省外局）（7.15）傷病保護院と内務省社会局の臨時軍事援護部を統合</p>	<p>長与又五郎，内村祐之，西丸四方「傑出人脳の研究」岩波書店刊</p> <p>司法保護事業法</p> <p>日本心理学会第7回大会，精神薄弱者保護法制定並に保護施設拡充建議</p> <p>第4回全国児童保護事業大会，精神薄弱児童保護建議（道府県に精神薄弱児治療教育院・精神薄弱児鑑別所国立療護院）</p> <p>日本精神衛生協会研究会，精神薄弱の定義とその程度に依る分類に因する意見の統一に就いて</p> <p>東京帝国大学精神病学開講50年記念講演会（内村祐之，杉田直樹講演）</p> <p>京都陸軍病院分院設立，昭和20年より国立津病院分院，昭和31年より国立榑原療養所となる（三重）</p>	<p>ヨーロッパ精神衛生委員会設立</p> <p>フロイド Sigmund Freud（1856～1939）歿．オーストリーの精神科医．精神分析学の創始者</p> <p>ナチス・ドイツ「安楽死に関する命令」を発令．精神病院入院中の患者を最初の対象として，快癒の見込のない病人を1941年までの2年間に5～10万人殺害</p> <p>クッシング Harvey William Cushing歿（1869～1939）（アメリカ）脳外科医</p>	<p>第二次世界大戦始まるポーアラ，原子核分裂の理論を完成</p>	1939
1904 (昭和15)	<p>国民優生法公布</p> <p>日本軍仏印進駐</p> <p>日独伊三国同盟成立</p> <p>公衆衛生院落成（東京芝区白金）ロックフェラー財団寄附金により</p>	<p>傷痍軍人武蔵療養所発足．昭和21年より国立武蔵療養所となる（東京府多摩郡小平村）一部落成開所病床数300，所長に東京府立松沢病院副院長関根真一就任（12.11）</p>			1939

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1940 (昭和15)	<p>新築 10月21日、大政翼賛会 発会式 10月31日、この日より 東京のダンスホール閉 鎖 たばこのゴールデン・ バットを「金鶏」にチェ リーを「桜」と新製品よ り改称と発表（敵国語 をさけるため） 小西六始めて国産カラ ーフィルム発売 公衆衛生院、栄養研究 所を合併し、新たに厚 生科学研究所設置</p>	<p>日本精神衛生協会主催「特殊教育問 題に関する座談会」 紀元2600年記念全国社会事業大会、 心身欠陥児童保護法制定を要望 大阪市立恩斎小学校（日本で最初の 精神薄弱学校）設立 青山脳病院（東京）院長斎藤茂吉、柿 本人磨の著で学士院賞受賞 桜ヶ丘保養院開院（財団法人東京市 方面事業後援会が、紀元2600年記念 事業とした。南多摩村連光寺に建設 したが、後援会は社会福祉法人と組 織が変更された） 東京大学精神医学教室と松沢病院医 局による「東京府下八丈島の一斉調 査」行われる</p>			1940
1941 (昭和16)	<p>小学校、国民学校と改 称 大東亜戦争始まる（12 月8日） 4月、6大都市で米穀 配給通帳制・外食券制 （1日2合3勺） 5月、家庭用木炭配給 通帳制、酒切符制実施 日本癌学会創立</p>	<p>黒沢良臣、学会を代表して精神病学 を精神医学と改称することを文部大 臣に陳情 傷痍軍人下総療養所発足。（千葉県千 葉郡誉田村）昭和20年より国立下総 療養所となる（千葉） 「国民学校令」施行規則で、精神薄弱 児の養護学校、養護学級任意設置を 規定 精神病患者監護法、精神病院法所管厚 生省予防課の所管となる</p>	<p>ベルグソン Henri Bergson 歿（1859 ～1941）フランスの哲学者、心理学、 生物学、精神病理学にも関心が深い</p>	<p>ペニシリン、D D T 実 用化</p>	1941
1942 (昭和17)	<p>少年審判所全国施行 航空母艦発進の米陸軍 機16機東京・名古屋・ 神戸など初空襲</p>	<p>傷痍軍人武蔵療養所800床に増床（4 月） 日本精神神経学会第41回総会、宿題 報告、精神薄弱 厚生省、妊産婦手帳規程実施</p>	<p>全国精神衛生協議会（イギリス） セーヌ県に専門医による児童精神衛 生相談開始（フランス）</p>		1942

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1942 (昭和17)		10月、心理学会発足（心理学関係団体の統合）			1942
1943 (昭和18)	東京の疎開計画きまる 学徒兵の入営 東京都制公布（7月1日施行）	精神厚生会（精神病者救治会、日本精神衛生協会、日本精神病院協会合併）発足 東京市養育院、農耕を中心に精薄者の更生を図る目的をもって「長浦更生農場」をひらく 精神医学研究所設立。（東京武蔵野病院はその附属病院）	ピアズ 歿（アメリカ） カナー Leo Kanner 児童早期自閉症 Early Infantile Autism 発表 ウエルトハイマー Max Wertheimer 歿（1880～1943）ドイツの心理学者、ゲシュタルト心理学を説く	ワックスマン、ストレプトマイシンを発見	1943
1944 (昭和19)	小学生集団疎開方法きまる アメリカ B29爆撃機、東京初爆撃			障害者雇用法（イギリス）	1944
1945 (昭和20)	広島、長崎、原子爆弾で壊滅 8月15日終戦 アメリカ軍の占領下となる 改正選挙法公布（女子参政権） 軍人保護院廃止、陸海軍病院、傷痍軍人療養所、日本医療団傘下の公的医療機関は厚生省所管の国立医療機関となる	松沢病院空襲により2病棟焼失（5.25～26） このころの1,2年間、精神病院の食糧状態甚だ悪く、患者の死亡激増 傷痍軍人肥前療養所設置（8月）佐賀県神埼郡東背振付 GHQ覚書「救済並びに福祉計画の件」提示 都立松沢病院梅ヶ丘分院設立、昭和27年より都立梅ヶ丘病院となる（東京） 府立洛南病院設立（京都） 国立肥前療養所設立（佐賀） 国立普通寺病院設立（香川）	キャノン Walter Bradford Cannon 歿（1871～1945）精神生理学の先駆者 スピアマン Charles Edward Spearman 歿（1863～1945）イギリスの心理学者、相関係数を数学的に処理、また因子分析を創始	第二次世界大戦終る	1945
1946 (昭和21)	生活保護法公布 日本国憲法公布 大学医学教育を終了したものに對する卒後臨床医学教育が制度化され実地修練（インター	GHQ「社会救済に関する覚書」 大和田小（東京渋谷）、堀川小（富山）等に特殊学級開設 県立岡山病院設立（岡山）	精神衛生法(National Mental Health Acts) 公布（アメリカ） 精薄者対象の連邦職業更生事業はじまる（アメリカ）	インドシナ戦争始まる	1946

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1946 (昭和21)	ン)が義務づけられる				1946
1947 (昭和22)	厚生省に児童局新設 児童福祉法 労働省発足 教育基本法 学校教育法 教育制度の六三三制実施 家事審判法 保健所法 労働安全規則	中央社会事業委員会「児童保護強化について」厚生大臣に答申 第1回全国児童福祉週間 文部省教育研究所内に特殊学級開設(現青島養護学校) 国立療養所久里浜病院精神科併設(神奈川) 国立療養所松籟荘精神科に転科(奈良)	オールポート Gordon W. Allport 『流言心理学 Psychology of Rumor』刊 ジャネ Pierre Janet 歿(1859~1947)フランスの心理学者		1947
1948 (昭和23)	極東軍事裁判判決 医師法 医療法 保健婦, 助産婦, 看護婦法 民生委員法 優生保護法 性病予防法 人身保護法 軽犯罪法 少年法 社会保険診療報酬支払基金法	国立国府台病院, 精神衛生センターとして発足. 同病院にはじめて, 精神医学ソーシャル・ワーカー置かる. また児童部開設 第11回日本保育学会 県立丸亀病院設立(香川)	モーズレイ病院の精神医学研究所はロンドン大学附属となり, モーズレイ病院とベツレム病院と連合, 保健省管轄となる(イギリス) エー Henri Ey『精神医学研究 Etudes Psychiatriques』第1巻刊 行器質力動説発表 第3回国際精神保健会議(ロンドン)この会議で, UNESCO, およびWHOの協力機関として世界精神保健連盟(World Federation for Mental Health)設立. それまでの名称のMental HygieneをMental Healthと改める 国民保健サービス(NHS)実施. 精神疾患は身体疾患と対等の取り扱いをうけることになり, 精神科医療の発展の基礎となる(イギリス) ハルド J. Hald とヤコブセン E. Jacobsen デイスルフィラム(Antabuse)の抗酒効果報告 ボネファー Karl Bonhoeffer 歿(1868~1948)ドイツの精神科医	オーレオマイシン・クロロマイセチンを創製(アメリカ)	1948
1949 (昭和24)	少年法施行, 少年院法施行 犯罪者予防更生法施行 更生保護制度が ³ 発足	日本精神薄弱児保護協会再建 特殊教育研究連盟結成 → '53 全日本特殊教育研究連盟	世界精神保健連盟の機関法(Bulletin of the World Federation for Mental Health) 創刊	世界平和擁護大会(パリ). 原爆禁止など宣言 サイバネティクス(人工頭脳)進歩, 利用進む	1949

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1949 (昭和24)	人権擁護委員法 身体障害者福祉法 三鷹事件 湯川秀樹ノーベル物理学賞を受ける	第1回青少年保護育成運動 内村祐之, 諏訪望, 岡田敬蔵『双生児の研究』発表. 医学の進歩, 第6輯, 南條書店 東京大学教授内村祐之, 都立松沢病院院長併任を解く	国立精神保健研究所(Nationl Institute of Mental Health) 設立(アメリカ) サリヴァン H. S. Sullivan 歿. アメリカの精神分析医 クレッチュマー『精神療法的研究 Psychotherapeutische Studien』刊行 ソーンダイク Edward Lee Thorndike 歿(1874-1949) アメリカの教育心理学者		1949
1950 (昭和25)	狂犬病予防法 生活保護法(全面改正) 建築基準法	精神衛生法公布. 精神病患者監護法(明治33年制定). 精神病院法(大正8年制定)廃止 第1回世界精神医学会議, 第3回世界精神保健連盟総会に会議に村松常雄教授(名古屋大学)出席 抗酒剤デイスルフィラム使用始まる 第2次米国教育使節団報告, 身体的精神的障害を有する児童に対する教育の機会均等について 県立内原精神病院設立, 昭和35年より県立友部病院となる(茨城) 県立精神病院設立(福井) 県立高茶屋病院設立(三重)	第1回世界精神医学会ならびに, 第3回世界精神保健連盟総会(パリ) 精神保健協会(National Association for Mental Health) 結成(アメリカ) マイヤー Adolf Meyer 歿(1866-1950) アメリカ精神科医	朝鮮戦争始まる	1950
1951 (昭和26)	児童憲章制定 社会福祉事業法 覚醒剤取締法 第13回日本医学会総会(東京)	日本精神衛生会(日本精神厚生会改称)発足.『精神衛生』発刊 中央社会福祉協議会設立→'52全国社会福祉協議会連合会→'55全国社会福祉協議会 日本, 世界保健機関(WHO)に加盟 福祉事務所発足		朝鮮休戦	1951

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1952 (昭和27)	細谷省吾, トリコマイ シン発見	国立精神衛生研究所設置(1月) 精神衛生普及会発足 全国精神薄弱児育成会結成	クロルクマジン, ドレー Jean De- lay とドニケル Pierre Deniker に より使われ始まる. 精神障害の新しい 薬物療法時代に入る	原子力発電実験に成功 (アメリカ)	1952
27~31		新潟精神病院, ツツガ虫病原体接種 事件 県立鶴岡病院設立(山形) 県立五稜病院設立(和歌山) 県立富養園設立(宮崎) 県立中央病院八重田病棟設立, 昭和 28年より青森県立精神病院となる (青森)	オイエル G. Euyer 「児童精神医学 序論 l' Introduction à la psychiatrie infantile」刊 ホーナイ Karen Horney 歿(アメリ カ)		
1953 (昭和28)	麻薬取締法 らい予防法 日雇労働者健康保健法	斎藤茂吉歿(1882~1953) 青山脳病院 長. 歌人 W. H. O. 顧問としてレムカウ Paul V. Lemkau およびブレイン Daniel Blain 来日, わが国精神衛生および 国立精神衛生研究所に対する勧告を 行なう 日本精神衛生連盟結成. 世界精神衛 生連盟に加盟 第1回全国精神衛生大会 文部省「双生児研究班」(内村祐之班 長) 文部省次官通達「教育上特別な取扱 を要する児童生徒の判別基準につい て」(→'62) 中央青少年問題協議会「精神薄弱児 対策基本要綱」総理大臣に意見具申 ヤスパース『精神病理学総論』上巻 (内村祐之, 西丸四方, 島崎敏樹, 岡田敬蔵訳)岩波書店刊 県立静和荘設立(山口) 県立東浦病院設立(長崎) 県立会津若松総合病院精神科設立, 昭和32年より県立若松精神病院とな	ゴルトシュタイン Kurt Goldstein (1878~1965) 『言語および言語障害 Language and Language-Disturban- ces』刊行 ビエラ Bierer デイ・ホスピタルを 創設(イギリス)		1953

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1953 (昭和28)		る(福島) 国立花巻療養所設立(岩手)			1953
1954 (昭和29)	第五福竜丸事件 あへん法 覚醒剤取締法改正 厚生年金保険法 女子年少者労働基準規則	精神薄弱児施設運営要領刊行 日本社会福祉学会発足 養護施設運営要領刊行 第1回全国精神衛生相談所長会議 全国精神障害者実態調査, 厚生省 世界精神衛生連盟より会長スミス B. F. Smith 理事長リース J. R. Rees 来日 熊本県小川更生院設立(熊本) 道立緑ヶ丘病院設立(北海道) 山梨県立精神病院設立. 昭和33年より 県立玉諸病院, 昭和36年より県立 北病院となる(山梨)	「精神病と精神薄弱に関する法律委員会」設置. 精神保健法(1959)成立の 基礎となる(イギリス) 第5回国際精神保健会議(トロント) ドイツの新しい精神神経学会 Deutsche Gesellschaft für Psychiatrie und Nervenheilkunde 設立	ビキニで水爆実験(アメリカ) 原子力潜水艦ノーチラス号が進水(アメリカ)	1954
1955 (昭和30)	梅沢浜夫, カナマイシン抽出 森永砒素ミルク中毒事件(乳児に奇病を発生) 患者 12,131名 死亡 131名	内閣に覚醒剤問題対策推進中央本部設置 クロール・プロマジン剤使われ始む 教護院運営要領刊行 日本精神分析学会設立(事務局, 慶応大学 精神神経科教室) 県立南光病院設立(岩手) 県立矢吹病院設立(福島) 県立療養所悠久荘設立(新潟)	精神衛生診療所(デイスパンセール)の 全国組織を正式に発足(フランス) AAPSW, 全国ソーシャル・ワーカー協会に 統合(アメリカ) サーストン Louis L. Thurstone 歿 (1887~1955) アメリカの心理学者		1955
1956 (昭和31)	売春防止法	厚生省公衆衛生局に精神衛生課設置 児童福祉法一部改正により, 情緒障害 児短期治療施設発足 公立養護学校整備特別措置法公布 県立駒ヶ根病院設立(長野) 県立病院養心荘設立(静岡) 県立芸陽院設立(高知) 市立紀南総合病院新庄別館設立(和歌山)	WHO精神衛生部, 精神分裂病の診断に 関する委員会と研究班を発足 クラークス Ludwig Klages 歿(1872 ~1956) ドイツの哲学者, 性格心理学者 バリント Balint 医師患者間の治療 関係の分析理論を発表	ハンガリー暴動	1956

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1957 (昭和32)	南極観測始まる 婦人相談所等に関する政令 原子爆弾被爆者の医療等に関する法律 江崎玲於奈, 黒瀬百合子, ダイオードのトンネル効果発見 大川周明歿	病院精神医学懇談会発足 (国立武蔵療養所関根真一所長の世話) 児童福祉法第15次改正 (通園施設を設ける) 県立名取病院設立(宮城) 八戸赤十字病院精神科設立, 昭和43年より県立八戸精神病院となる (青森)	パリの13区に精神衛生組織の先駆地区(Secteur-pilote)を開始 (フランス) 抗うつ剤(イミプラミン)使われ始める ダフィ Elizabeth Duffy 賦活理論をまとめる	世界初の人工衛星打上げに成功(ソ連)	1957
1958 (昭和33)	国民健康保険法 学校保健法 婦人補導院法 銃砲刀剣類等所持取締法 文部省道徳教育実施要綱通達	国立精神薄弱児施設「秩父学園」開園 県立高崎療養所設立, 昭和40年県立高崎病院昭和45年県立佐波病院となる(群馬)	ジャック・ラカン Jacques Lacan のグループが精神分析パリ協会から分離, "フランス精神分析協会(Société psychanalytique de France)" をつくる デメント W. C. Dement とクライマン N. Kleitman 「逆説睡眠現象」(REM)を発表	人工衛星打ち上げ成功(アメリカ)	1958
1959 (昭和34)	サリドマイド剤による異常児(あざらし子)発見さる(都立築地病院) 皇太子殿下正田美智子嬢とご結婚 週刊誌創刊相つぎ, 週刊誌ブーム	日本児童精神医学会発足.(事務局, 京都大学医学部附属病院精神科) 「児童精神医学とその近接領域」創刊 全特連・受護協会・育成会による「精神薄弱問題懇談会」発足	現存の精神衛生制度の法律を廃止し精神保健法公布(イギリス) 国連第14回総会で児童権利宣言採択 ノンネ M. Nonne 歿(1864~1959)ドイツ神経学者	宇宙ロケットの発射に成功 宇宙ロケット月面到着に成功(ソ連)	1959
1960 (昭和35)	薬事法 薬剤師法 医療金融公庫法 道路交通法	県立岡本台病院設立(栃木) 精神薄弱者福祉法 日本精神身体医学会発足 国立精神衛生研究所に精神薄弱部創設置('61発足) 精神薄弱者更生相談所設置 日本ソーシャルワーカー協会創立 養護学校学習指導要領暫定案発表 5月28・29日, 第1回日本精神身体医学会総会(慶応大学において, 三浦岱栄教授会長) 臨床心理専門家の資格条件認定のた	世界精神保健連盟, 「世界精神衛生年」を組織 フランス精神科医療組織の地区別組織の全国的計画(Politique de secteur)を樹立. 全国を人口7万の地区約750に分割 国際公教育会議 (スイス・ジュネーブ)「精神薄弱児に対する勧告」採択 国際精薄関係団体連盟結成 → '63 第1回国際会議(ベルギー)開催 関	6.20~6.26, ロンドン National Hospital 百年祭, 沖中重雄東大教授出席	1960

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1960 (昭和35)	酒に酔って公衆に迷惑をかける行為の防止に関する法律 児童扶養手当法 6月24日、萩野昇、吉岡金市医師「イタイイタイ病の原因に関する研究について」日本整形外科学会(札幌)	めの委員会発足	ケネディ大統領「精神薄弱に対する国家計画の必要に関する声明」発表(アメリカ) 6月、世界精神医学連合(World Psychiatric Association)結成。会長 D. G. Cameron(カナダ) 第3回世界精神医学会議(Montreal)(カナダ)(6.4~10) 第5回国際精神療法会議(Wien 8.21~26) 第6回国際精神保健会議(Paris 8.30~9.5) ユング Carl G. Jung 歿(1875~1961)スイスの精神分析医 ゲゼル Arnold Lucas Gesell 歿(1880~1961)アメリカの児童心理学者一卵性双生児の研究で有名		1960
1961 (昭和36)		国立結核療養所榑原病院を精神療養所に転換 公立上下湯ヶ丘病院設立(広島) 徳島市立間瀬病院設立(徳島) 精神薄弱者問題白書1961年版刊行 日本保育協会設立 島田療育園開設			1961
1962 (昭和37)	堀江青年、ヨットで単独太平洋横断成功	心身障害者通勤センター「原町成年寮」設置 情緒障害児短期治療施設が静岡県にできる			1962
1963 (昭和38)	老人福祉法 初の日米テレビ中継、ケネディ大統領暗殺を速報 11月8日、三池炭鉱三川抗大爆発。世界最大の炭坑災害	精神衛生法改正を、日本精神神経学会、日本精神病院協会、厚生省が検討し始める 全国精神衛生連絡協議会発足 厚生省、第2回精神障害者実態調査を行なう 日米精神医学会議(東京) 文部省「養護学校小学部・中学部学習指導要領(精神薄弱児教育編)」次官通達 学校教育法施行令一部改正「養護学		ケネディ大統領暗殺される(アメリカ)	1963

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1963 (昭和38)		<p>校(精薄)に就学する児童生徒の心身の故障の程度を定める政令」公布 重度精神薄弱児収容棟創設 全国心身障害児をもつ兄弟姉妹の会結成 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院開校 厚生省次官通達「重症心身障害児療育実施要領」 秩父学園付属保護指導職員養成所開設 第1回特殊教育学会 日本臨床心理学会設立(事務局国立精神衛生研究所内)</p> <p>県立せりがや園設立(神奈川) 国立小諸療養所設立(長野)</p>			1963
1964 (昭和39)	<p>救急病院等を定める省令 東海道新幹線、東京新大阪間開業 オリンピック東京大会開催 東京パラオリンピック開催</p>	<p>日本精神病理・精神療法学会、第61回日本精神神経学会総会に際して成立 日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会成立</p> <p>ライシャワー、アメリカ大使刺傷事件。警察庁から厚生省に対し、法改正の意見を具申</p> <p>日本臨床心理学会活動開始</p> <p>厚生省社会局道知「精神薄弱者収容授産施設の設置及び運営について」 全国重症心身障害児を守る会発足 重度精神薄弱扶養手当法公布</p> <p>全特連、受護協会・言成会主催、精薄福祉月間はじまる</p>	<p>アメリカ精神医学会(ロスアンゼルス)、日本精神神経学会会員多数招待される</p> <p>第1回国際社会精神医学会議(ロンドン)</p> <p>クレッチマー Ernest Kretschmer 歿(1888～1964)ドイツの精神科医</p> <p>ピエロン Henri Piéron 歿(1881～1964)フランスの心理学者</p>	<p>ヘルシンキ宣言、世界医師連盟が採択。医療と結合した臨床実験と非治療的実験とに分けて、患者の自由意志による同意の必要などの原則を規定</p>	1964
1965 (昭和40)	<p>母子保健法 理学療法士及び作業療法士法 朝永振一郎、ノーベル</p>	<p>精神衛生法改正案、国会で可決 精神衛生センター設置を決定 保健所の業務に精神衛生が加わる 精神障害者家族会発足</p>	<p>世界精神保健連盟、第18回総会(バンコク) International Journal of Psychiatry 発刊</p>		1965

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1965 (昭和40)	物理学賞を受く	呉秀三先生生誕百年祭 身体障害児実態調査 (厚生省児童家庭局)をおこない重症心身障害児, 複合障害児の実態把握がおこなわれた こどもの国開園 国立小児病院開院 厚生省, 精薄福祉行政の窓口を児童家庭局に統合 日本アルコール医学会設立 (会長小片重男京都府立医大教授 (法医学) (事務局京都府立医大法医学教室) 日本臨床心理学会第1回大会	第3回自殺予防に関する国際会議 (ノルヴェル) WHO「精神分裂病の国際パイロット研究」始まる (~1973)		1965
1966 (昭和41)		岡山県でフェニールケトン尿症発見のための無料検査始める 特別児童手当法公布 日本精神薄弱研究協会設立総会 患者150人に対する新薬の人体実験発覚 日本アルコール医学会第1回総会開催 (京都) 県立高松病院設立 (石川)	第4回世界精神医学会議 (WPA) (マドリッド) ビンスワンガー L. Binswanger 歿 (1881~1966) スイスの精神科医		1966
1967 (昭和42)		6月, 自動車運転免許の申請, 更新に, 医師の診断書 (精神障害に関する) の提出を義務づけることにする (警察庁). 重症心身障害児施設設置を決める 全国障害者問題研究会結成大会 児童の心身障害の実態調査実施 この中で「情緒障害」が一つの項目としておこされた. 委員は黒丸, 牧田, 平井, 上出, 玉井 「情緒障害」学級として, 文部省がは	国立精神保健研究所 (NIMH) 改組し NIH より独立昇格, Public Health Service 直属となる (アメリカ) シュナイダー Kurt Schneider 歿 (1887~1967) ドイツの精神科医 ケーラー Wolfgang Köhler 歿 (1887~1967) ゲシュタルト心理学の創始者の1人	バーナード医師により初の人間心臓移植手術 (南アフリカ)	1967

年 代	日本における一般事項	外本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1967 (昭和42)		<p>じめて研究校を指定した。国府台病院内9, 市立一中, 国府台小の分校(特殊学級)もその一つである</p> <p>地域精神医学会設立(事務局群馬大学精神科) 病院精神医学懇話会を病院精神医学会と改める(事務局国立武蔵療養所)</p> <p>大曲市立角間川病院設立(秋田)</p>			
1968 (昭和43)	<p>川端康成, ノーベル文学賞受賞 8月8日, 札幌医大の和田寿郎教授, 心臓移植手術施行(札幌) 小笠原諸島22年ぶりに日本復帰 騒音規制法 大気汚染防止法</p>	<p>学会認定医制度問題が討議される(第65回精神神経学会総会, 長崎)</p> <p>厚生省, わが国初めての「精薄者(児)の実態調査」発表 母子保健推進員置く</p> <p>子供の生活研究所で, 全国で初めての民間の自閉症治療教育センターの建設始まる</p> <p>心身障害児福祉基金5人委員会「心身障害児扶養保険制度に関する基本的な考え方について」厚生大臣に報告 愛知県心身障害者コロニー開所</p> <p>東京都が「自閉症の教育措置の研究」を5年間で始めた。委員は牧田, 上出, 平井, 高橋, 玉井</p> <p>自閉症児おやの会全国協議会結成</p> <p>県立湖稜病院設立(島根) 都立府中医療センター設立(東京) 愛知県心身障害者コロニー設立(愛知) 国立療養志段味荘精神科併設(愛知)</p>	<p>国際精神薄弱援護団体連合エルサレム会議決議「精神薄弱者人権宣言」</p> <p>フランス, 大学制度再編成始まる。精神医学と神経学を完全に分離, 各大学医学部内に4年間の精神科専門医養成制度を設立</p>	1968	
1969 (昭和44)	<p>1月18~19日, 東京大学古撓学生排除 1月21日, 紛争中の大</p>	<p>4月, 第66回日本精神神経学会総会(金沢市)は公開評議員会と総会で終始し, 予定した学術講演会は中止</p>	<p>12月, アメリカ精神医学会(APA)の重要研究課題を国内国外の「攻撃と暴力」と指定, 1970年5月から</p>	<p>4月, 米病院死者の心肺保存(22時間)に成功 3月3日, 超音速旅客</p>	1969

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1969 (昭和44)	<p>学部1年6ヵ月ぶりにストライキ解除 4月23日、昭和43年度「公害白書」健康障害の増大を報告 12月17日、厚生大臣諮問機関、6公害病指定</p>	<p>厚生省「自閉症児療育事業実施要綱」 一般の小学校に情緒障害学級がおかれる。それ以前は施設内か病院内 全国重症心身障害児を守る会「重症心身障害児療育センター」落成 国立特殊教育研究所新設決定 特殊教育総合研究調査協力者会議 「特殊教育の基本的施策のあり方」について報告 厚生省「自閉症児療育事業実施要綱」 7月、日本脳波学会「脳波と脳死に関する委員会」国際脳波学会から諮問のあった脳死の判定基準について、わが国の第一次見解の大綱をまとめた 8月、安田病院(相原市)、10月栗岡病院(大阪府)で看護人が入院患者に暴行、死に至らしめる事件相つぐ 10月、心理学関係14団体(日本心理学会、日本応用心理学会、日本臨床心理学会など)が昭和45年春からカウンセラー資格試験を行ない、合格者に「臨床心理士」の称号を与えることにした 12月、日本精神神経学会理事会「精神病院に多発する不祥事件に関連し全会員に訴える」声明発表</p>	<p>の2年間をその研究期間とする ヤスパース Karl Jaspers 歿(1883～1969)ドイツの精神病理学者、哲学者</p>	<p>機「コンコルド」初飛行 7月21日、アポロ11号月面着陸。人類初の月面到着</p>	1969
1970 (昭和45)	<p>3月4日、大阪万国博覧会開く 4月6日、イタイイタイ病早期診断法(荻野昇ら) 筑波研究学園都市建設法 人の健康に係る公害犯</p>	<p>3月5日より、「ルポ精神病棟」朝日新聞夕刊に連載7回。この後、精神病院、精神医療の現状に関する記事が新聞雑誌に激増 6月、栃木県両毛病院の木造病棟火災。入院患者17人焼死</p>	<p>1月1日、カナダで脳の血管移植に成功</p>	<p>5月5～6日、WHO第23回総会(ジュネーブ)公害除去に国際協力を 5月20日、WHO年次総会決議、臓器移植で人権尊重を</p>	1970

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1970 (昭和45)	<p>罪の処理に関する法律 コインロッカーに赤ん坊の死体発見される。 2件 (以後、昭和47年8件、48年に46件、49年は10日に1件の割りとなる)</p> <p>11月25日、作家三島由紀夫「楯の会」隊長として自刃</p> <p>種痘副作用禍ひろがり、厚生省、種痘接種中止を認める</p> <p>7月、東京周辺で光化学スモッグ禍(数4人)</p> <p>7月27日、心臓移植の和田教授を告発。8月31日最高検、証拠不十分で不起訴、9月2日札幌地検も不起訴を正式決定</p> <p>9月7日、厚生省はスモン病の原因とみられるキノフォーム含有整腸剤の販売、使用中止を指示</p>	<p>精神障害者・薬物中毒者の保安処方の新設が法制審議会の刑事法特別審議会(小野清一郎会長)で検討。これに対して厚生省、中央精神衛生審議会(内村祐之会長)は保安処方のあり方の検討を始めた</p> <p>厚生省、精神病院実態調査の結果を発表、アルコール中毒が10年間に4倍、60歳以上の老人が入院患者の1割強、薬物療法が98.4%となる</p> <p>東京学芸大付属特殊教育研究施設に情緒障害部門がはじめて設置</p> <p>心身障害者対策基本法公布 障害者雇用促進協会創立 全国心身障害児福祉財団発足</p> <p>5月4日、44年度全国家庭児童調査(10月、8,809世帯)カギッ子500万人、3割が遊び場なし</p>			1970
1971 (昭和46)	<p>ドルショック、円為替を変動相場制に移行</p> <p>4月5～7日、第18回日本医学総会(東京)</p> <p>7月、医療の荒廃に抗議して、塩月正雄医師免許返納</p> <p>5月、中高年齢者等の雇用の促進に関する特別措置法</p> <p>5月、環境庁設置法</p>	<p>総理府「中央心身障害者対策協議会」設置</p> <p>「養護学校(精神薄弱教育)小学部・中学部学習指導要領を制定する告示」公布</p> <p>国立コロニー「のぞみの園」開所</p> <p>文部省「特殊教育拡充整備計画要領」発表</p> <p>国立特殊教育総合研究所(神奈川久里浜)発足</p> <p>2月、土居健郎『甘えの構造』、弘文堂出版</p> <p>2月、宮城県岩沼町小島病院の精神病棟出火、入院患者6人焼死</p>	<p>国連総会本会議「精神遅滞者の権利に関する宣言」決議</p> <p>11月、第5回世界精神医学会議(W.P.A.)メキシコ市で開催。ここで、ソ連精神科医ウラジミール・ブロフスキー「西側精神科医へのアピール」を行なう</p> <p>8月31日、「政治目的のための精神医学悪用に反対する精神科医の会」。精神医学の政治的悪用を弾劾する決議案、精神医学悪用に関する調査委員会の設置案を可決</p> <p>12月7日、英国社会保障相「すべての精神病院は今後15年以内に閉鎖さ</p>		1971

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1971 (昭和46)		<p>2月、千葉県沼南町の精神薄弱者収容施設桐友学園出火、園児ら5人焼死</p> <p>3月27日、日本精神神経学会理事会で東大神経科石川清講師が台弘精神科教授が20年前松沢病院で行った研究「精神分裂病者脳組織の含水炭素代謝について」は治療の範囲を逸脱した行為で、生体実験であるとして、「前理事長台弘氏を全学会員に告発」した</p> <p>7月12日、山下清歿(1922～1971)「放浪の画家」貼画の天才</p> <p>12月12日、日本精神神経学会「石川氏による台氏批判問題委員会」(小池清廉委員長)設置(昭和48年まで12回会合)</p>	<p>れ、新しいサービスに代る」との政策を発表(イギリス)</p>		1971
1972 (昭和47)	<p>田中首相中国訪問、日中国交正常化成る</p> <p>山陽新幹線岡山まで開通</p> <p>5月25～27日、6月1日東京で広範囲な光化学スモッグ発生。被害者続出。練馬区石神井南中学校一時休校</p> <p>5月15日、沖縄本土復帰</p> <p>6月27日、最高裁、日照権、通風権に対して初の保護判決</p> <p>6月、労働安全衛生法</p> <p>7月、勤労婦人福祉法</p> <p>7月、タバコに「健康に注意」の表示がつく</p> <p>10月、公害健康被害補償法</p> <p>10月2日、厚生省難病対策要綱を発表。48年度から5ヶ年計画で難</p>	<p>7月、東京都神経科学総合研究所(小川鼎三所長)府中市に開設</p> <p>島田療育園「動く重症児棟」落成</p> <p>「養護学校(精神薄弱教育)高等部学習指導要領を制定する告示」公布</p> <p>国際精神薄弱者援護団体連盟に愛護協全・育成会加盟</p> <p>第1回全国障害者技能競技大会</p> <p>4月、東京墨田区同愛記念病院、看護婦不足を理由に女子精神科病棟(34床)を閉鎖</p> <p>4月17日、富士山麓病院で入院中のアル中患者など約数十人が看護人と検査技師をおどして保護室にとじこめ、かけつけた医師に乱暴する</p> <p>5月21日、日本精神神経学会の「石川清氏による台氏批判問題委員会」(小池清廉委員長)は「台氏が実験に当って同意を得ていなかったことは</p>	<p>3月3日、オーストラリアの産婦人科医W.マクブライド博士「イミプラミン」を服用した婦人が奇形児を出産した例7例を報告した</p> <p>APA『Life Time Learning for Psychiatrists』刊。精神科医の継続学習の必要を述べる</p>	<p>6月16日、国連人間環境会議、人間環境宣言を採択して閉会</p>	1972

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1972 (昭和47)	病対策に取組計画 初年度 251 億円予算計上	遺憾である」 「精神病患者、精神薄弱者に対する人体実験は一般の人々に対する実験に比べより一層慎重でなければならぬ」などの基本的見解をまとめた			1972
1973 (昭和48)	筑波大学法案決定 2月16日、野辺地慶三博士(1890～)日本人としてはじめてWHOレオン・ベルナル賞を授与。(公衆衛生のノーベル賞といわれる) 宮城県の産婦人科医菊田昇10年間に100人の私生児を「実子」として子の欲しい人に斡施していたことが判明 6月5日、第1回「世界環境デー」日本で最初の環境週間(6.11.まで) 9月、厚生省、老人実態調査発表 10月6日、厚生省特定疾患疫学調査協議会、報告発表 10月8日、第5回国際脳神経外科会議(東京)会長佐野圭司東大教授 10月23日、江崎玲於奈ノーベル物理学賞を受く 10月21日、我妻栄(1897, 4.1～1973)民法学者、東大名誉教授、文化勲章受賞者 10月27日、今和次郎(1888～1973)建築学者日本人の生活風俗の記	日本精神神経学会精神病院問題委員会、問題の発生した病院(吉田病院・佐藤神経科病院・中村病院・富士山麓病院・アヤマ病院)について報告書をまとめる 2月24日、日本精神神経学会理事会は「石川清氏よりの台氏批判問題委員会」からの報告書を討議、人体実験に倫理原則を定め、人体実験倫理委員会の設置を決定 社会福祉法人「渡良瀬会」の柏瀬一理事長と弟の東京都委託の精神薄弱者援護更生施設「保ヶ丘育成園」の柏瀬勝次郎園長が詐欺・業務上横領の疑いで逮捕 3月、同愛記念病院精神科女子病棟について男子病棟(41床)も閉鎖 3月24日、日本精神神経学会理事会は「石川清氏より……委員会」報告を討議し、「台氏の実験は医学実験と認め得ない。人体実験の原則に照らして基本的欠陥があった」との7項目にわたる結論をまとめる 3月25日、上記理事会結論が同学会評議会で可決されず保留となる。 4.27の評議員会(名古屋)で採択 4月、青森市民病院小浜分院鉄筋2階建精神病棟の火災で入院患者3人が煙にまかれて死亡	第1回アジア精神薄弱会議(マニラ、フィリピン) ニューヨーク医師会が死の決定で、安楽死は認めないが、患者は「厳かに死ぬ権利がある」とする	英国でサリドマイド児に160億円補償提出 ヴェトナム停戦 ピカソ Pablo Ruizy Picasso 歿(1881～1973)野獣派画家 カザルス Pablo Casals 歿(1876～1973)スペインのチェロ奏者	1973

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1973 (昭和48)	録研究,「考現学」提唱 早大名誉教授, 日本生 活学会会長	5月1日, 日日本精神神経学会総会(名古屋市)は, 4.27の評議員会決定を承認 6月22日, 刊法全面改正を審議した法制審議会は「保安処分制度」の新設を正式に決定 7月, 札幌市北全病院で必要のない患者にロボトミーを施したとして問題となる。日本精神病院協会(渡辺栄市会長)は常任理事会で, 同病院比田勝彦院長に退会勧告 10月19日, 日本脳波学会の「脳死委員会」(植木幸明委員長)は脳死の判定基準の最終案を発表 立津政順熊本大教授らと佐野圭司・白木博次両東大教授の脳外科を利用した各研究が問題にされる 国立久里浜養護学校開校 厚生省通達「療育手帳」の実施要綱 「学校教育法中養護学校における就学義務及び養護学校の設置義務に関する部分の施行期日を定める政令」公布, 昭和54年4月1日とする 1月28日, 霜田静志歿(1890, 7. 9 ~ 1973) 児童心理学者・元多摩美大教授 8月3日, 時実利彦歿(1909, 7. 9 ~ 1973) 大脳生理学者・東大名誉教授『脳の話』『人であること』等ベストセラーの著者			1973
1974 (昭和49)	3月10日, フィリピン, ルバング島で小野田寛郎陸軍少尉30年ぶりに投降命令受伝 8月30日, 三菱重工本	日本精神薄弱者福祉連盟結成 精神安定剤 { トランキライザー (メプロバメート, クロルジアゼ, ポキサイド) ・ イミプラミン } による先		2月13日, ソ連作家ソルジェニツイン『収容所列島』発表により国外追放	1974

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1974 (昭和49)	<p>社爆破事件・死者8人、重軽傷250人以上</p> <p>9月28日、日本の人口1億1,000万人を突破</p> <p>10月8日、佐藤栄作、ノーベル平和賞決定</p>	<p>天異常児が問題となる</p> <p>サリドマイド事件和解</p> <p>2月26日、台弘東大精神科教授の定年退官を記念して行われる予定だった最終講義が東大精神科医師連合の医師や学生約80人の抗議で流れる</p> <p>4月15日、島田療育園の小林提樹園長辞任</p> <p>4月18日、埼玉県岩槻市の住宅街、ゴミ焼却用ドラムカンに捨てた赤子(生後2ヵ月)焼き殺さる。母親出産以来)ノイローゼ気味だった</p> <p>5月22日、日本精神神経学会総会で「精神外科は医療として許されない」との決議が圧倒的多数で可決される見込み</p> <p>8月28日、神奈川県平塚市の県営団地で階下の家のピアノの音がうるさいと階上の元工員(46)が母娘2人を刺し殺す</p> <p>9月12日、京都市内の医療法人十全会(赤木考理事長)系列の3つの精神病院で、高齢の入院患者が去年1月～9月までに859人死亡した問題を調査中の日本精神神経学会精神医療委員会(福井東一委員長)は11日、「大量死の基本的原因は看護の不在にある」という報告書をまとめ、これをもとに京都府に対して、①精神病入院医療の必要がない患者を鑑定のうえ退院させる。②医師数、看護婦数など、医療法の規定が実質的に満たされるよう指導し、それまでは大量死の事実にもとづき、入院患者を、看護できる範囲に減らすなどの改善指導を勧告した</p>	<p>12月、米、カルフォルニア大で精神安定剤のメプロバメートとケロルジアゼポキサイドを服用した妊婦が服用しなかったものに比べて6倍の異常児出生率があるという報告</p>	<p>7月15日、試験管ベビー3人を誕生させることに成功と英国リーズ大学のビーウィス教授発表</p>	1974

年 代	日本における一般事項	日本における精神衛生事項	外国における精神衛生事項	外国における一般事項	年 代
1975 (昭和50)	<p>4月5日, 第19回日本医学会総会(京都市)の開会式冒頭, 近畿医療被害者連絡会議やスモン患者など約120人が演壇を占拠. また青年医師らは反医学会総会を開く</p> <p>4月12日, 東京大学入学式, 7年ぶりに日本武道館で施行</p> <p>5月, 作業環境測定法</p> <p>5月27日, 日本世界一の新聞普及率(ユネスコのマスコミ調査)2人に1部強. スエーデンと並ぶ</p> <p>9月30~10月14日, 天皇・皇后両陛下アメリカ訪問</p> <p>10月5~10日, 第29回世界医師会総会(東京)</p> <p>11月23日, 高層マンションでガス爆発. 2人死亡75戸に被害(東京都八王子市の11階建マンションの6階)</p> <p>10月, 昭和50年春の高校進学率91.9%. 大学進学率37.8%. 女子の大学進学率は初めて男子を上回る</p> <p>10月1日, 国勢調査. 総人口は1億1,193万3,818人で 男 5,508万8,752人 女 5,684万5,068人 前回昭和45年に比べて納727万人(6.9%)増加 1世帯人員3.48人(前回は3.73人)</p>	<p>第2回アジア精神薄弱会議(東京)</p> <p>3月17日, 島崎敏樹歿(1912.11.8~1975.3.17)精神病理学者, 1944~1967, 東京医科歯科大学教授</p>			1975

下記の諸文献から多数引用，または参考にさせて頂いた。さらに研究所内外多くの方々の協力を得ました。お礼を申し上げます。

文 献

- 1) 秋元波留夫 石川清：日本精神医学史 日本精神医学全書 第1巻，総論 金原出版 昭和41年(1966)
- 2) 秋元波留夫：真理の帯 創造出版 昭和43年(1968)
- 3) 内村祐之：わが歩みし精神医学の道 みすず書房 昭和43年(1968)
- 4) 内村祐之：精神医学の基本問題 医学書院，1972
- 5) 小川鼎三：医学の歴史 中公新書39 中央公論社，昭和39年(1964)
- 6) 金子準二編著：日本精神医学年表 日本精神病院協会 昭和48年(1973)
- 7) クレペリン，エミール(岡不二太郎・山鼻康弘訳編)：精神医学百年史 金剛出版 1977
- 8) クルーチェフランソワ(吉倉範光訳)：心の健康—精神衛生—一文庫クセジュ 白水社 昭和42年
- 9) 月刊百科 各号 平凡社
- 10) 小林靖彦：日本精神医学小史 中外医学社 昭和38年
- 11) 小林靖彦：日本精神医学の歴史 現代精神医学大系 第1巻 a 中山書店 1979
- 12) 坂本太郎監修 日本史小辞典 山川出版社 昭和32年
- 13) ジルボーク，グレゴリ(神谷美恵子訳) 医学の心理学史 みすず書房 1958
- 14) 心理学辞典 平凡社 昭和32年
- 15) 精神衛生資料 No.1, 5, 14 国立精神衛生研究所 昭和28, 32, 42年
- 16) 精神衛生法をめぐる諸問題 松沢病院医局病院問題研究会 昭和39年
- 17) 精神科医療体系 日本精神病院協会 昭和41年
- 18) 精神神経学雑誌 各巻 日本精神神経学会
- 19) 世界大百科事典 第1巻 平凡社 昭和39年
- 20) 立川昭二：日本人の病歴 中公新書 449 中央公論社 昭和51年
- 21) 立川昭二：近世病草紙 平凡社選書63 平凡社 1979
- 22) ビシヨ—Pierre Pichot：フランス精神医学の発展 日仏医学15, 1-16, 1979
- 23) フォスター—Sir Michael Foster(西丸和義監訳，小野紀美子訳)：生理学の黎明—16, 17, 18世紀— 医歯薬出版 昭和53年
- 24) 歴史学研究会編：日本史年表 岩波書店 1966
- 25) 森谷尅久：京医師の歴史 講談社現代新書 521 昭和53年
- 26) EY, Henri: Histoire de la Psychiatrie. In Psychiatrie, Encyclopédie Médico-chirurgicale. Paris, 1955.
- 27) LEIGH, Denis, C.M.B. PARE and John MARKS (ed.): A Concise Encyclopaedia of Psychiatry. University Park Press, Baltimore. 1977.
- 28) PELICIER, Yves: Histoire de la psychiatrie. Collection "que sais-je?" 1428. PUF. 1971.

精神衛生資料No.23 1978 別冊
精神衛生年表

編集責任者

高橋宏

発行所

国立精神衛生研究所
〒272 千葉県市川市国府台1-7-3
電話 市川 (0473) 72-0141

印刷：教文堂グラフィック